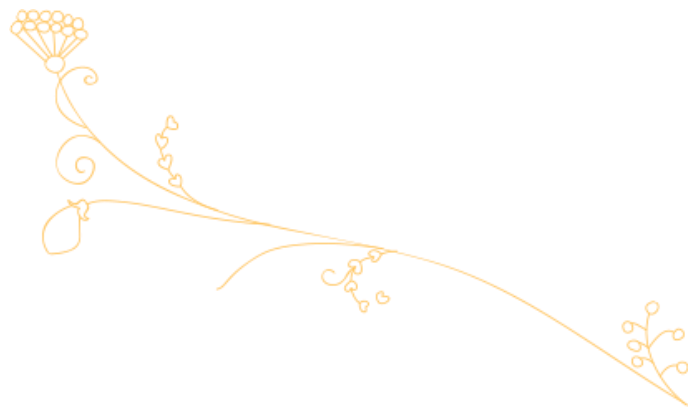




2022年12月期 決算説明資料

2023年2月
株式会社セレス（東証プライム市場：3696）





1. 会社概要
2. 2022年連結決算の概要
3. 2022年各事業の業績
4. 2023年業績予想・成長戦略
5. サステナビリティの取組み
6. APPENDIX



1. 会社概要

インターネットマーケティングを通じて 豊かな世界を実現する

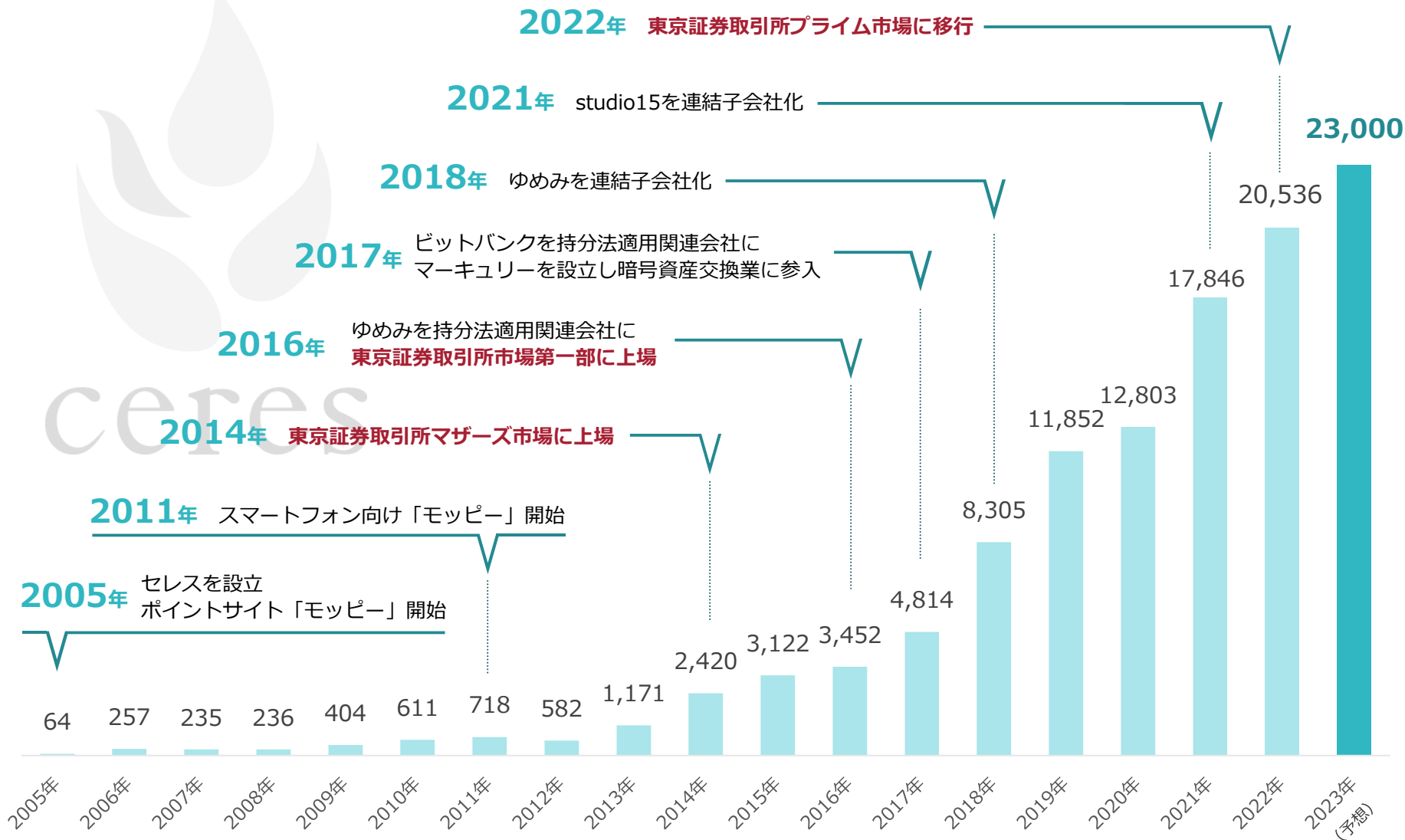
セレスは、社会インフラとなったインターネットを通して、
様々なマーケティングサービスを提供することにより、
豊かな社会生活の実現をはかります。

「トークンエコノミーを創造」



CERESとはギリシャ神話の「大地の女神」、「五穀豊穡の神」。
CERESはローマ名で、ギリシャ名はDemeter（デメテル）。

会社名	株式会社セレス
設立年月日	2005年1月28日
所在地	東京都世田谷区用賀四丁目10番1号 世田谷ビジネススクエア タワー24F
決算期	12月
資本金	20億2,568万円（2022年12月末現在）
代表者	代表取締役社長 都木 聡
従業員数（連結）	498名（2022年12月末／臨時雇用者除く）
事業内容	モバイルサービス事業 フィナンシャルサービス事業
連結子会社	株式会社マーキュリー、株式会社ディアナ、株式会社バッカス、 studio15株式会社、株式会社ラボル、株式会社サルスース、株式会社ゆめみ
持分法適用関連会社	ビットバンク株式会社



※ 売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと仮定して記載しております。

売上高 (単位：百万円)

2026年12月期に売上高400億円・経常利益100億円をコミット
中期経営計画2026達成のために5年間で300億円の積極投資を計画

→ FY2026

売上高

400億円

経常利益






100億円

投資金額





300億円

主力のモッピーで安定的にキャッシュを創出し成長分野に積極投資
成長モデルの異なる事業を組み合わせ持続可能な事業ポートフォリオを構築

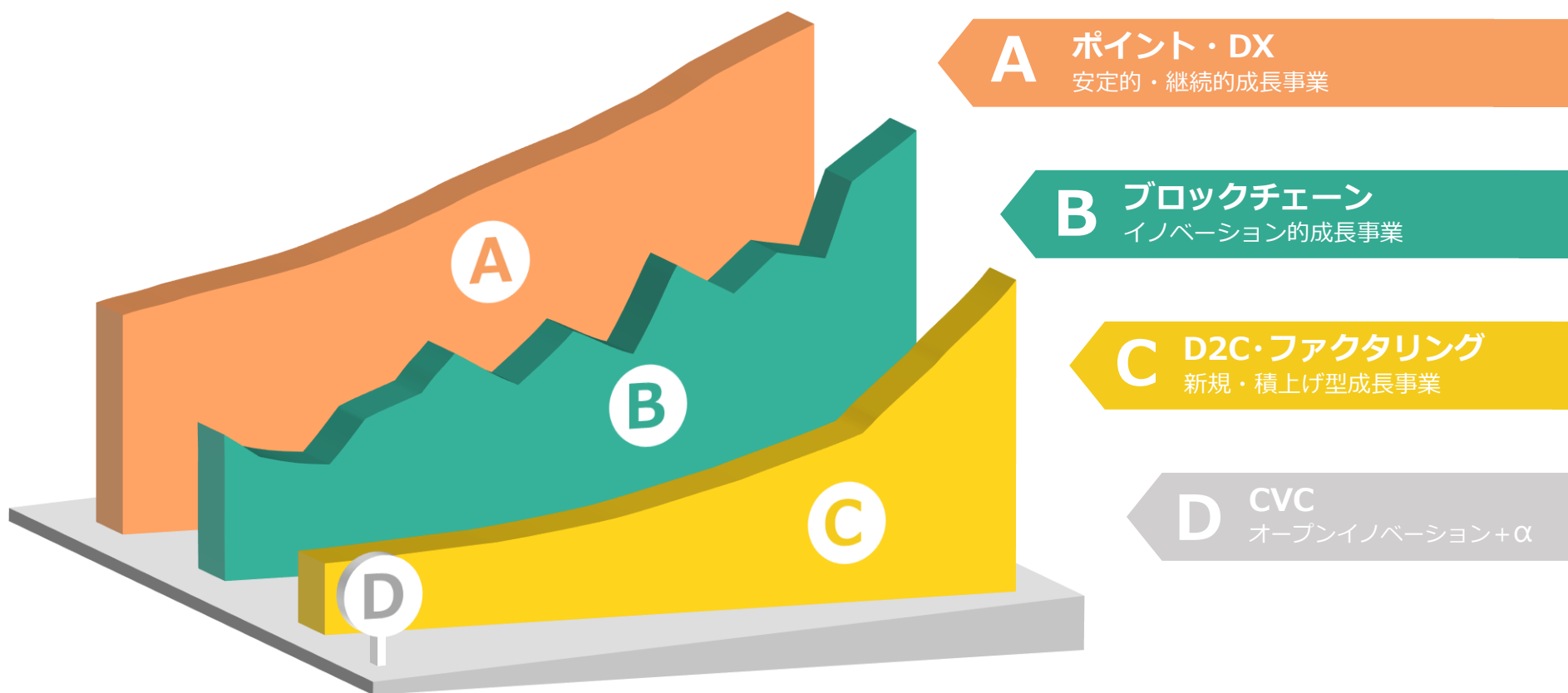
モバイルサービス事業

ポイント		
D2C		
DX		

フィナンシャルサービス事業

ブロックチェーン		
オンラインファクタリング		
CVC (ベンチャーキャピタル)	投資育成事業	

成長モデルの異なる3つの事業ポートフォリオで中期成長をはかる
ポイント・DXで安定成長しブロックチェーン・D2Cで非連続な急成長を





2. 2022年連結決算の概要



2021年度以前の売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと仮定した数値で記載しております

セグメント内区分の変更により2021年度以前のモバイルサービス事業の内訳を修正して記載しております



売上高は前年同期比15.1%増の20,536百万円

- モバイルサービスはポイントのモッピーとD2C、DXが好調に推移し、前年同期比24.2%増の20,447百万円となり、過去最高売上
- フィナンシャルサービスは株式売却の減少（1,102百万円）と暗号資産価格の下落により前年同期比80.7%減の287百万円

営業利益は前年同期比45.9%減の1,246百万円

- モバイルサービスはモッピー好調、D2C黒字化によりDXの積極的な人材投資を吸収し9.0%増の3,291百万円となり過去最高益
- フィナンシャルサービスは株式売却益の減少（844百万円）とマーキュリーへの積極投資により940百万円の損失

経常利益は前年同期比80.6%減の679百万円

- 暗号資産価格下落の影響などによりビットバンクの持分法投資損失は489百万円（前年同期は963百万円の利益）

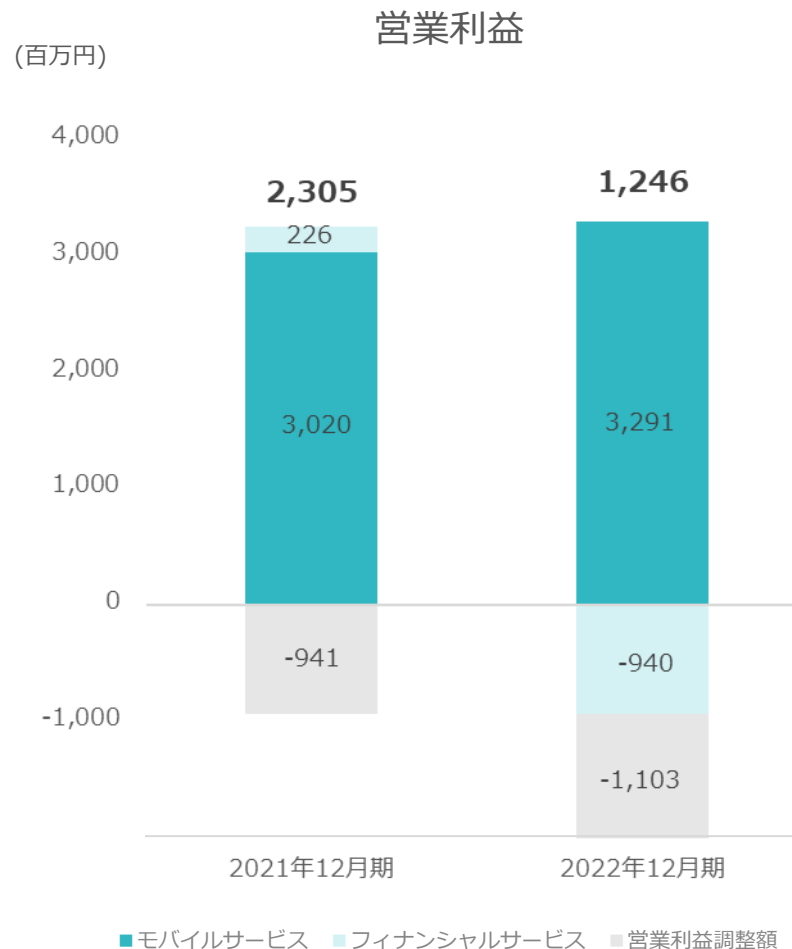
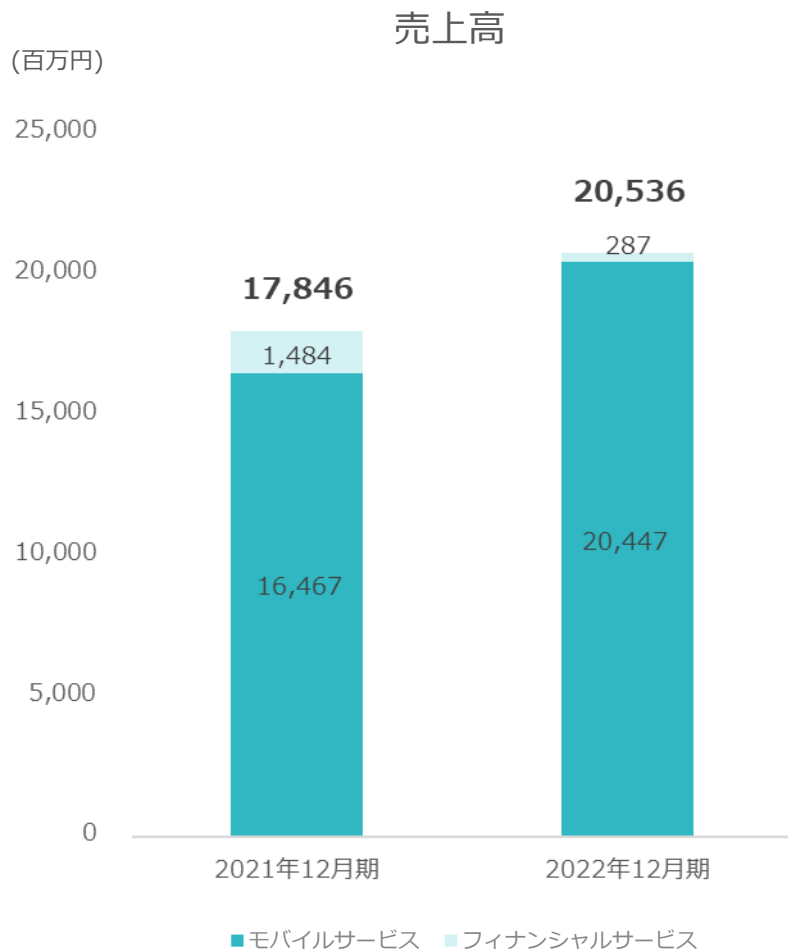
損益計算書の概要

(単位：百万円)	2022年12月期	2021年12月期	前年同期比
売上高	20,536 (100.0%)	17,846 (100.0%)	+15.1%
売上総利益	8,063 (39.3%)	7,773 (43.6%)	+3.7%
販売費及び一般管理費	6,816 (33.2%)	5,467 (30.6%)	+24.7%
営業利益	1,246 (6.1%)	2,305 (12.9%)	-45.9%
経常利益	679 (3.3%)	3,499 (19.6%)	-80.6%
当期純利益※1	46 (0.2%)	2,775 (15.6%)	-98.3%
EBITDA※2	1,147 (5.6%)	4,693 (26.3%)	-75.5%

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

モバイルはポイント好調によりDXの人材投資を吸収し過去最高営業利益 フィナンシャルは株式売却減少とマーキュリー積極投資により減収・営業損失



※ セグメント間の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

※ 営業利益調整額は特定のセグメントに帰属しない費用項目です。

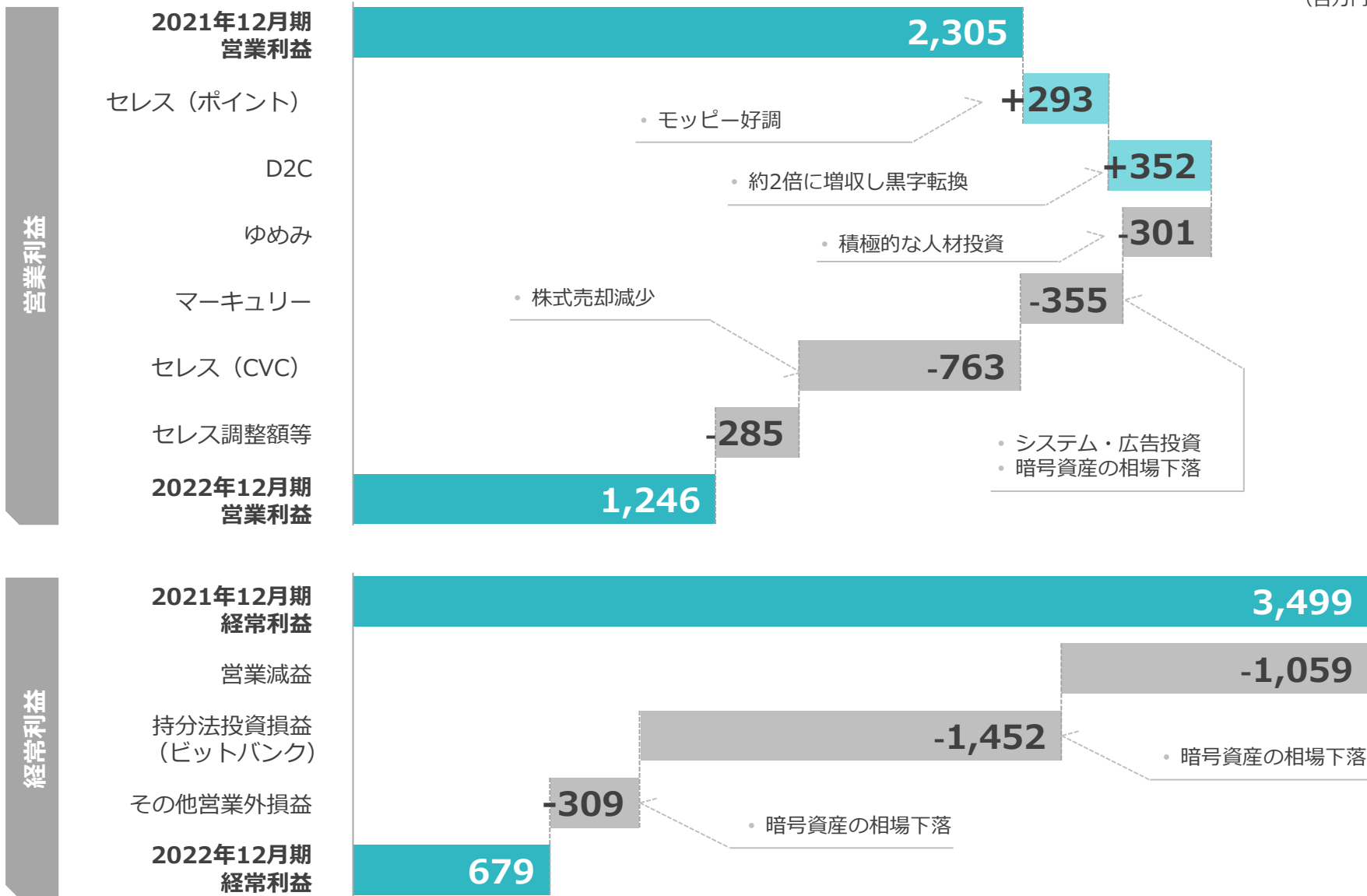
セグメント別業績

(単位：百万円)	売上高		営業利益
	2022年12月期	2021年12月期	2022年12月期
全社	20,536 YOY +15.1%	17,846	1,246
モバイルサービス事業	20,447 YOY +24.2%	16,467	3,291
ポイント	14,041 YOY +13.6%	12,364	2,995
D2C	2,246 YOY +107.3%	1,083	175
DX	4,358 YOY +17.3%	3,714	227
セグメント内取引高	-199 YOY -	-694	-106
フィナンシャルサービス事業	287 YOY -80.7%	1,484	-940
セグメント間取引高 / 調整額	-198 YOY -	-105	-1,103

※ セグメント別の営業利益については前年同期を開示しておりません。

営業利益・経常利益の増減要因

(百万円)






暗号資産の価格変動による業績への影響について

当社および暗号資産交換業を運営する
連結子会社マーキュリー、
持分法適用関連会社ビットバンクは、
事業運営上、一定量の暗号資産を自己保有

自己保有の暗号資産については
会計ルール上、評価/売却損益を
営業収益（売上高）に計上
※評価損益についてはキャッシュの出入りは無し

暗号資産の価格変動による連結業績への影響

			影響範囲
▶	 Mercury	連結子会社 当社持分 100%	連結売上高以下
▶	 bitbank	持分法適用関連会社 当社持分 23.6%	連結経常利益以下
▶	 ceres	ステーキング用途で 暗号資産を保有	連結経常利益以下

影響額

(百万円)

	2022年12月期	2021年12月期	前年差
売上高	-119	+1	-120
営業利益	-119	+1	-120
経常利益	-567	+692	-1,259

期初業績予想に対する達成状況

(単位：百万円)	2022年12月期	期初連結業績予想 2022年2月10日発表	期初予想達成率	連結業績修正予想※1 2023年2月7日発表
売上高	20,536	18,500	111.0%	20,500
営業利益	1,246	1,400	89.1%	1,240
経常利益	679	2,000	34.0%	670
当期純利益※2	46	1,100	4.2%	40
EBITDA※3	1,147	2,400	47.8%	1,140

- 売上高はポイント好調、DXも堅調に推移し11.0%の超過達成
- 営業利益はポイント・D2Cが好調に推移するも
DXにおける人材投資とマーキュリーにおけるシステム・広告投資により未達
- 経常利益、当期純利益※2、EBITDA※3は営業利益の予想未達に加え暗号資産の価格下落によるビットバンクの持分法投資損失489百万円が発生し大幅未達

※1 2022年2月10日に連結業績予想を発表し、2023年2月7日に連結業績予想の修正を発表しております。

※2 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※3 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

セグメント別 期初業績予想に対する達成状況

(単位：百万円)	売上高		営業利益	
	2022年12月期	2022年 期初予想	2022年12月期	2022年 期初予想
全社	20,536 達成率 111.0%	18,500	1,246 達成率 89.1%	1,400
モバイルサービス事業	20,447 達成率 113.3%	18,040	3,291 達成率 120.7%	2,726
ポイント	14,041 達成率 125.5%	11,190	2,995 達成率 150.6%	1,989
D2C	2,246 達成率 84.8%	2,650	175 達成率 114.5%	153
DX	4,358 達成率 103.8%	4,200	227 達成率 39.1%	583
セグメント内取引高	-199 達成率 -	-	-106 達成率 -	-
フィナンシャルサービス事業	287 達成率 57.4%	500	-940 達成率 -	-507
セグメント間取引高 / 調整額	-198 達成率 -	-40	-1,103 達成率 -	-818

損益計算書の概要（第4四半期）

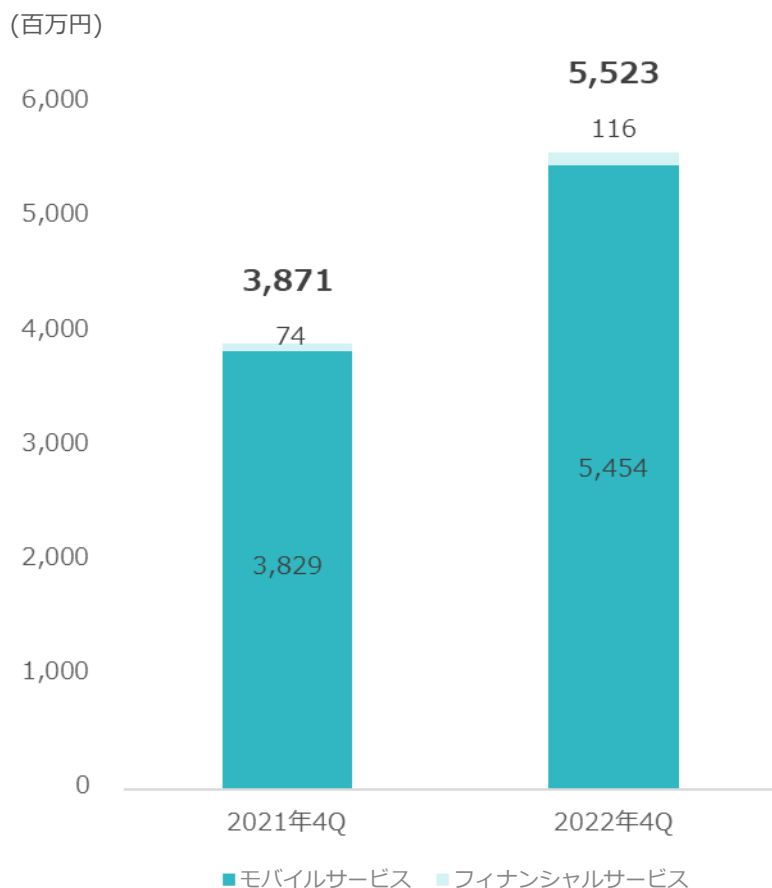
（単位：百万円）	第4四半期 （2022年10-12月）	前年同期 （2021年10-12月）	前年同期比	第3四半期 （2022年7-9月）	前四半期比
売上高	5,523 (100.0%)	3,871 (100.0%)	+42.7%	5,414 (100.0%)	+2.0%
売上総利益	2,063 (37.4%)	1,431 (37.0%)	+44.2%	2,252 (41.6%)	-8.4%
販売費及び 一般管理費	1,784 (32.3%)	1,368 (35.4%)	+30.4%	1,882 (34.8%)	-5.2%
営業利益	279 (5.1%)	62 (1.6%)	+346.5%	369 (6.8%)	-24.3%
経常利益	99 (1.8%)	135 (3.5%)	-26.3%	335 (6.2%)	-70.3%
四半期純利益※1	27 (0.5%)	-308 (-)	-	159 (2.9%)	-82.5%
EBITDA※2	233 (4.2%)	212 (5.5%)	+9.7%	454 (8.4%)	-48.7%

※1 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を示します。

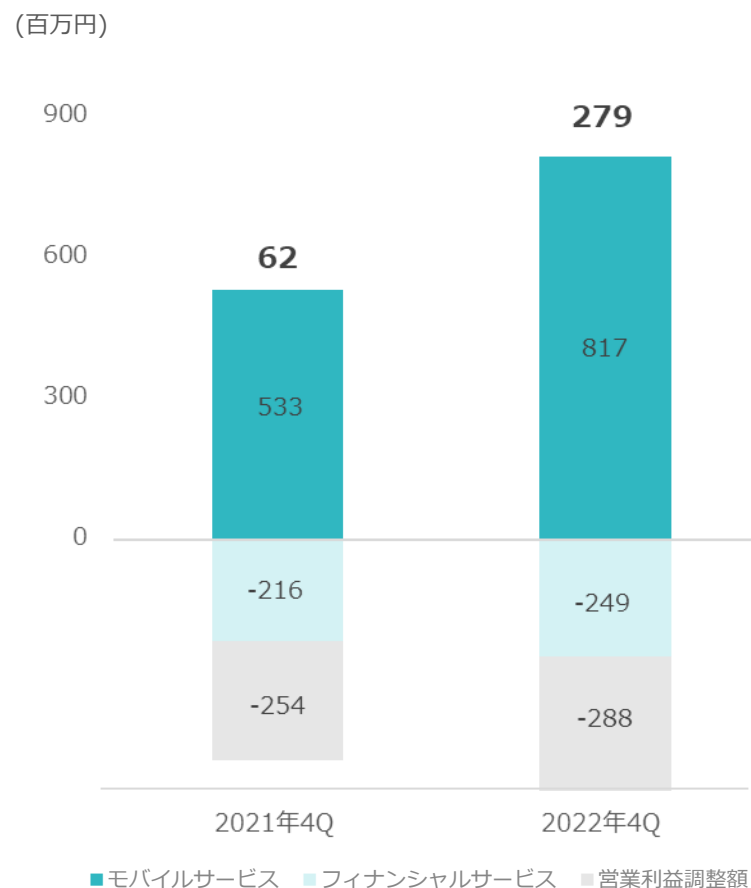
※2 EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

モバイルはポイント・D2Cで過去最高売上、DXも好調に推移し増収増益 フィナンシャルは株式売却で増収も、マーキュリー積極投資により営業損失拡大

売上高



営業利益



※ セグメント間の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

※ 営業利益調整額は特定のセグメントに帰属しない費用項目です。

セグメント別業績（第4四半期）

(単位：百万円)	売上高		営業利益
	第4四半期 (2022年10-12月)	前年同期 (2021年10-12月)	第4四半期 (2022年10-12月)
全社	5,523 YOY +42.7%	3,871	279
モバイルサービス事業	5,454 YOY +42.4%	3,829	817
ポイント	3,719 YOY +32.1%	2,815	715
D2C	654 YOY +76.0%	371	93
DX	1,149 YOY +30.8%	878	41
セグメント内取引高	-68 YOY -	-236	-32
フィナンシャルサービス事業	116 YOY +56.9%	74	-249
セグメント間取引高 / 調整額	-47 YOY -	-32	-288

※ セグメント別の営業利益については前年同期を開示しておりません。

貸借対照表の概要

(単位：百万円)		2022年12月期 期末	2021年12月期 期末	前年増減額	主な要因
流動資産	流動資産	14,413 (63.8%)	13,163 (65.1%)	+1,250	現金及び預金 -294 売掛金 +678 営業投資有価証券 +443
	固定資産	8,183 (36.2%)	7,071 (34.9%)	+1,111	のれん +708 投資有価証券 +260 関係会社株式 -487
資産合計		22,597 (100.0%)	20,234 (100.0%)	+2,362	
流動負債	流動負債	10,558 (46.7%)	8,924 (44.1%)	+1,633	ポイント引当金 +899 短期借入金 +600 未払法人税等 -460
	固定負債	2,342 (10.4%)	1,490 (7.4%)	+852	長期借入金 +873
負債合計		12,900 (57.1%)	10,414 (51.5%)	+2,486	
純資産合計		9,696 (42.9%)	9,819 (48.5%)	-123	当期純利益 +46 配当金 -449
負債・純資産合計		22,597 (100.0%)	20,234 (100.0%)	+2,362	

キャッシュフロー計算書の概要

(単位：百万円)	2022年12月期	2021年12月期	2022年12月期の内訳
営業活動によるキャッシュ・フロー	101	1,162	税金等調整前当期純利益 721 減価償却費・のれん償却額 373 ポイント引当金の増加 899 持分法による投資損失 489 法人税の支払い等 -1,357
投資活動によるキャッシュ・フロー	-1,685	-787	マーキュリーのシステム投資等 -292 投資有価証券の取得 -290 サルーヌの子会社化による支出 -884
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,191	408	有利子負債の増加 1,538 株主還元（配当） -448
現金及び現金同等物の期末残高	6,491	6,883	

株主還元

	2020年度	2021年度	2022年度
年間配当金	18.00円	40.00円	20.00円
配当金総額	197百万円	449百万円	227百万円
配当性向	26.7%	15.9%	484.9%
純資産配当率	3.1%	5.7%	2.5%
自己株式取得総額	299百万円	—	—
株主還元額	497百万円	449百万円	227百万円

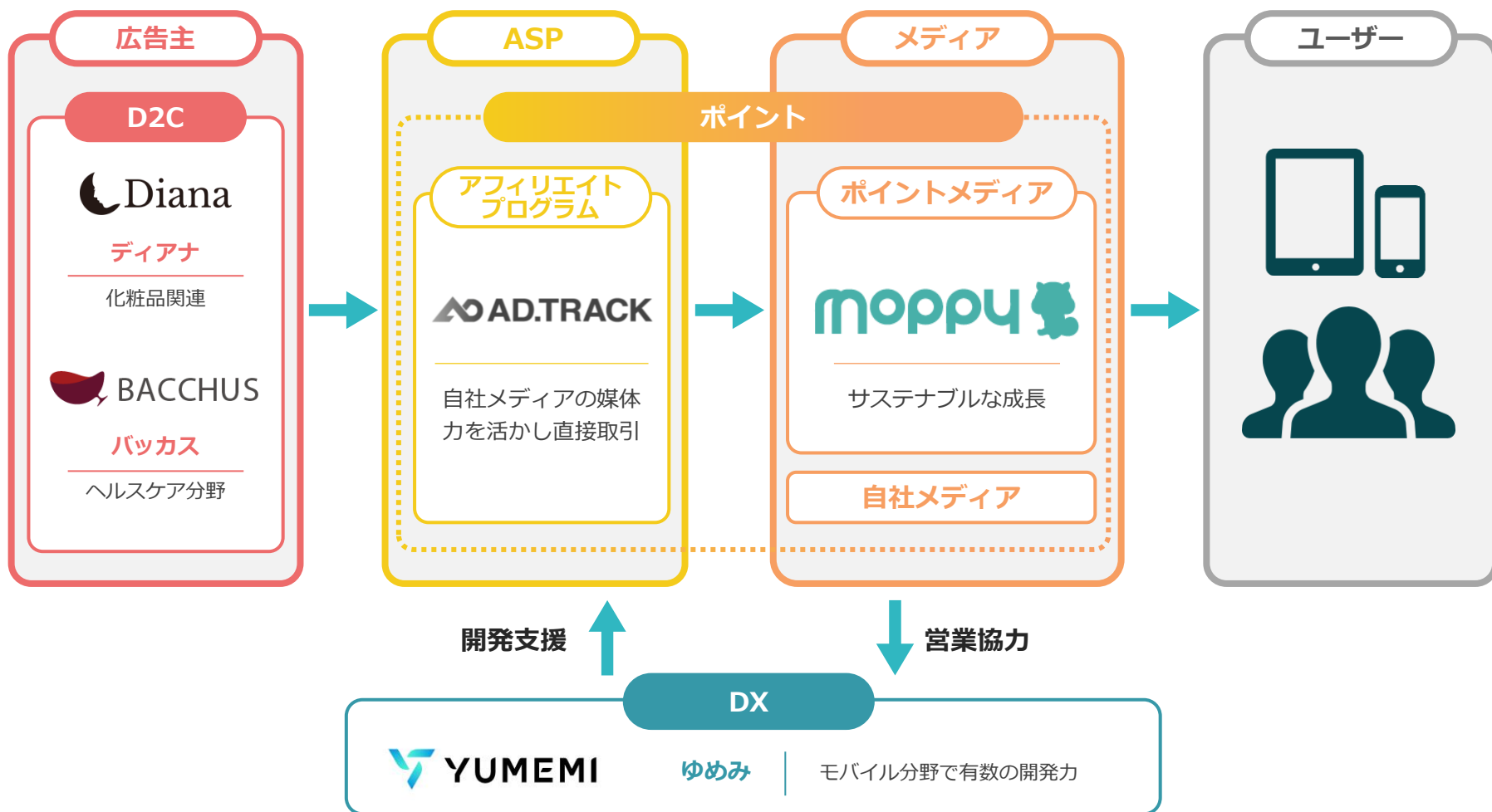
経営指標

	2020年度	2021年度	2022年度
ROA（総資産経常利益率）	12.5%	19.2%	3.2%
ROE（自己資本純利益率）	11.8%	35.6%	0.5%



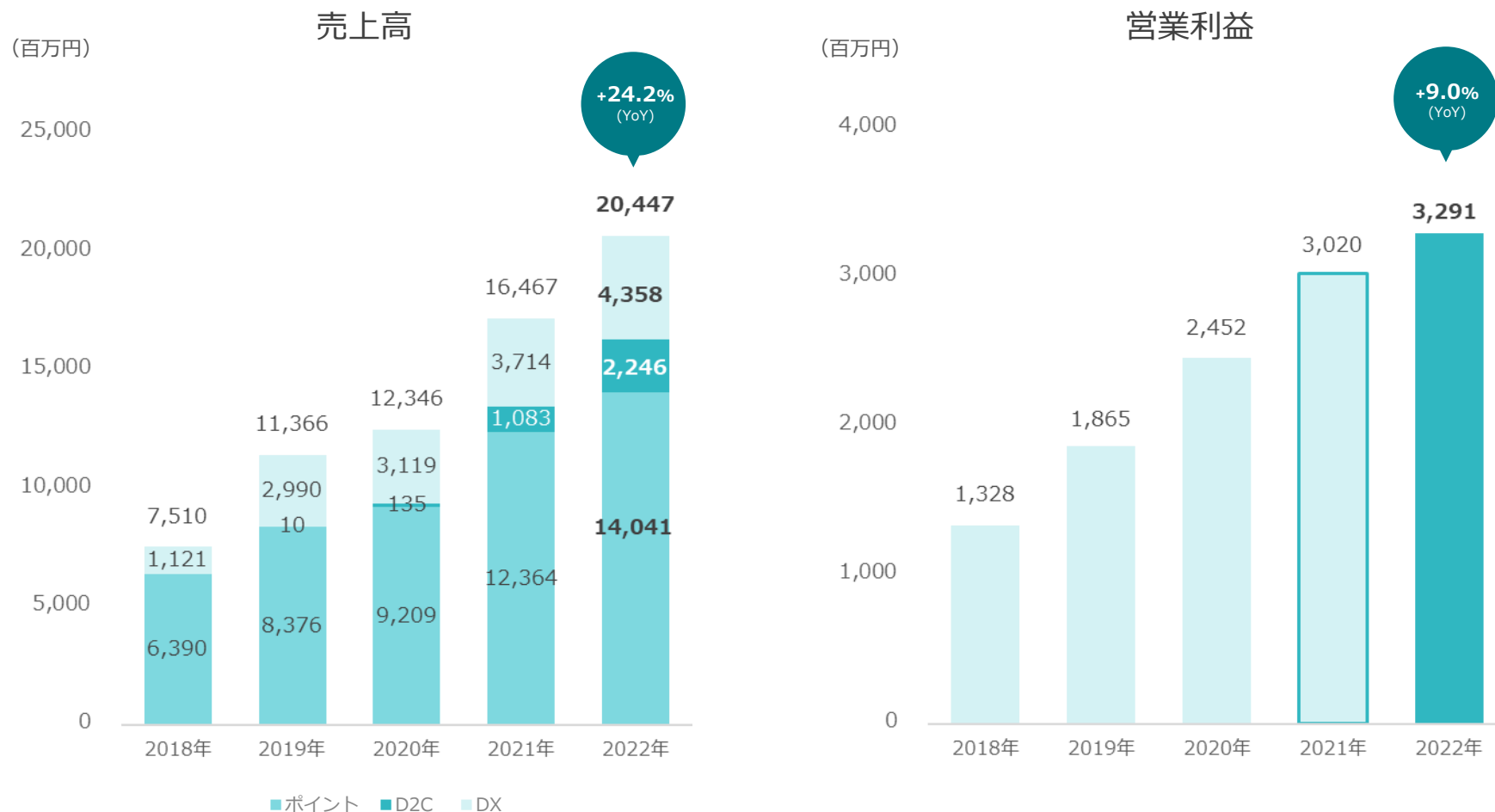
3. 2022年各事業の業績

モッピー・アドトラック・D2Cの相互連携でシナジーを創出



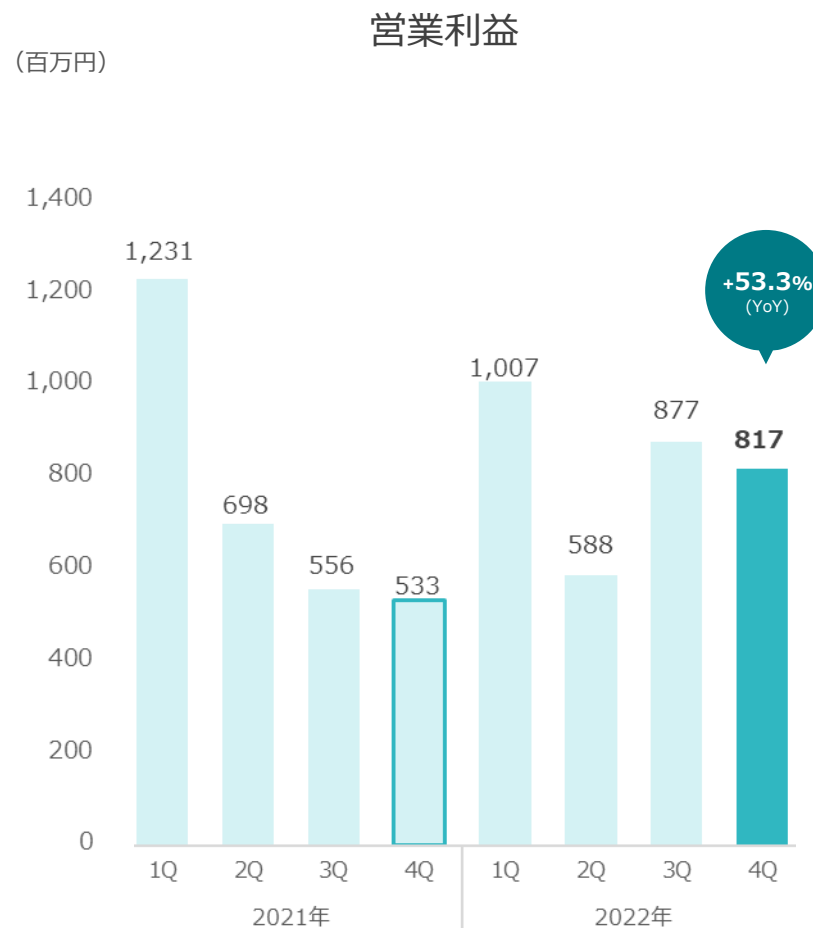
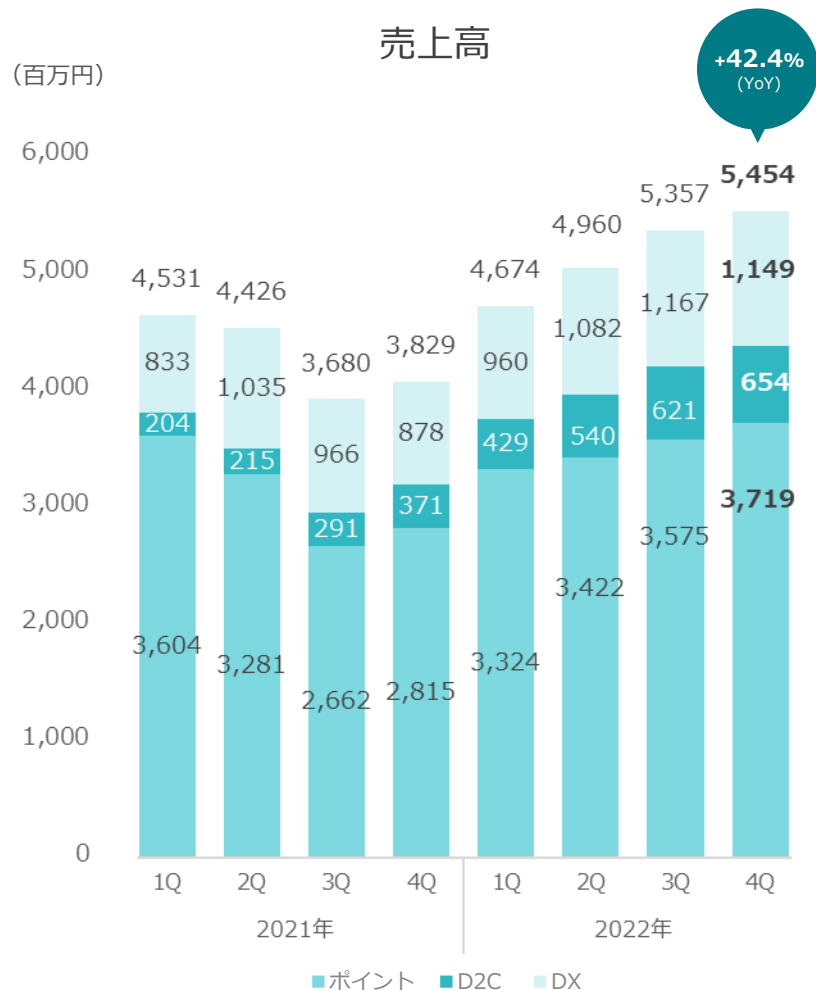
モバイルサービス事業の業績推移（年推移）

売上高はポイント・D2C・DXが通期過去最高となり24.2%の増収
営業利益はモッピー好調、D2C黒字化で他事業の苦戦をカバーして過去最高益



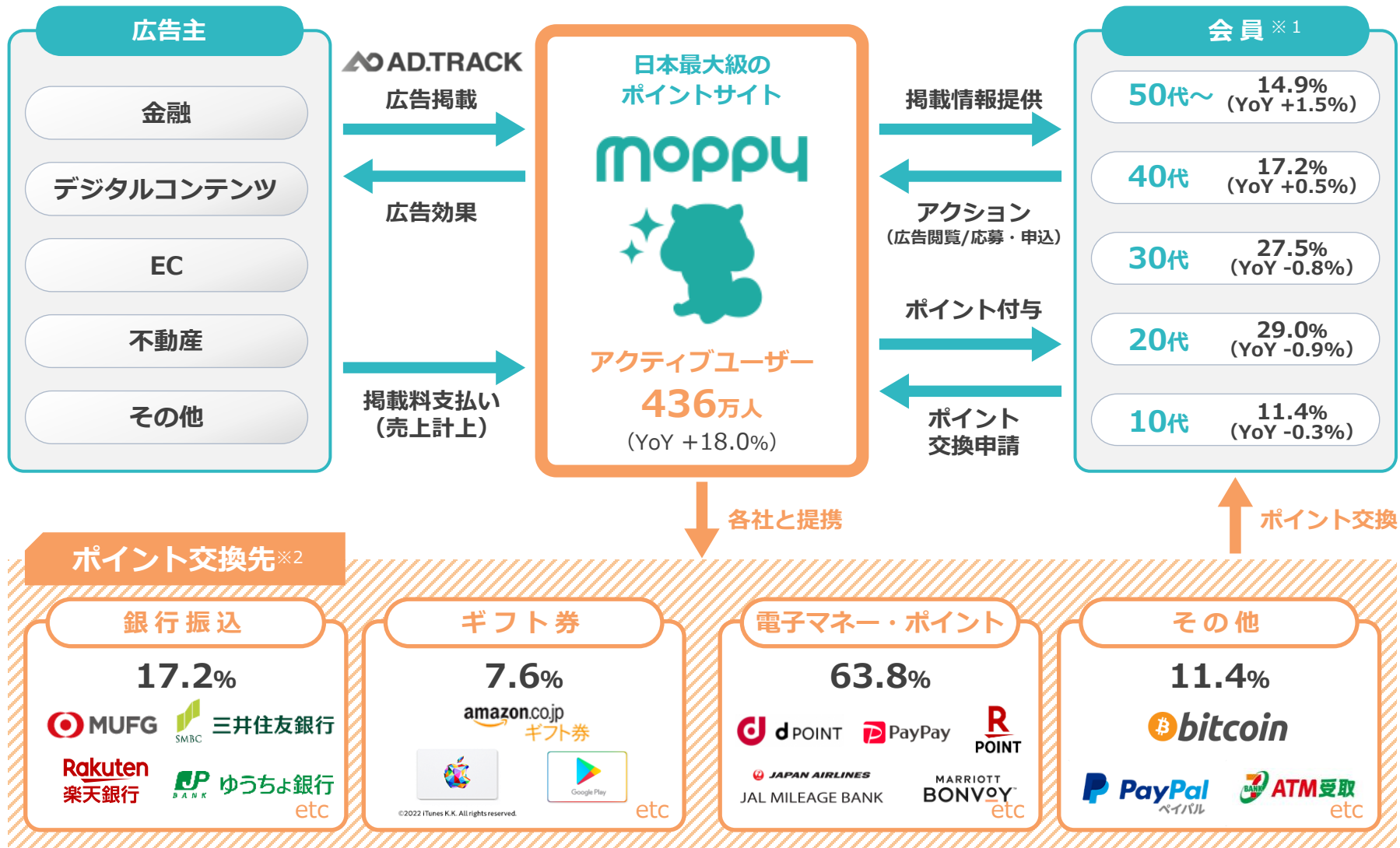
※ セグメント内の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

売上高はポイント・D2Cが過去最高、DXも好調に推移し42.4%の大幅増収
 営業利益はモッピー・D2C好調で他事業の苦戦をカバーし53.3%の大幅増益



※ セグメント内の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

モッピーのビジネスモデル

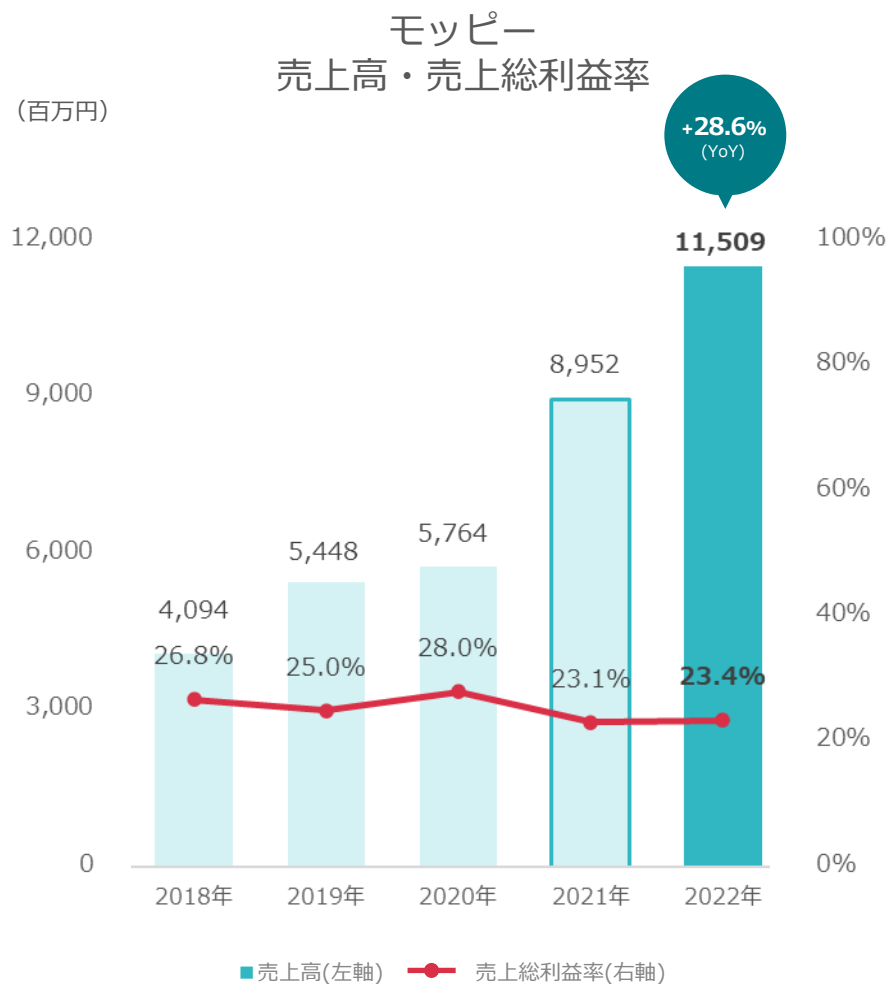
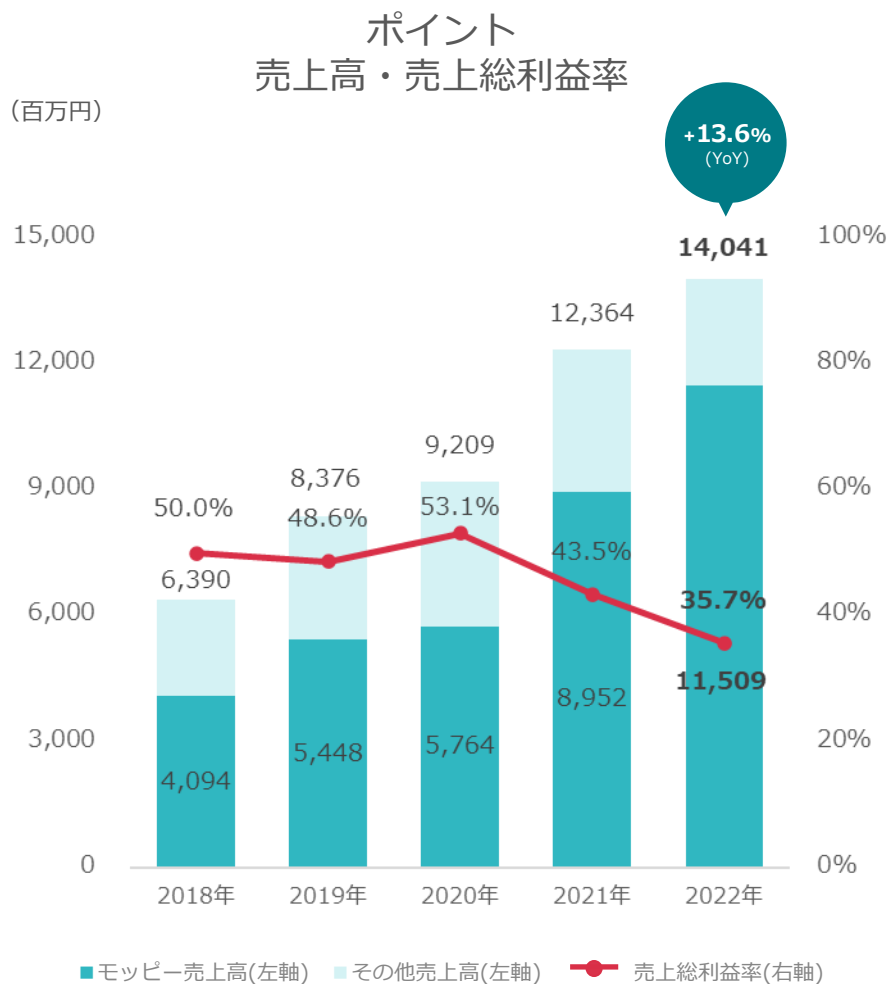


※1 2022年12月末日時点の割合

※2 2022年10~12月に発生したポイント交換割合

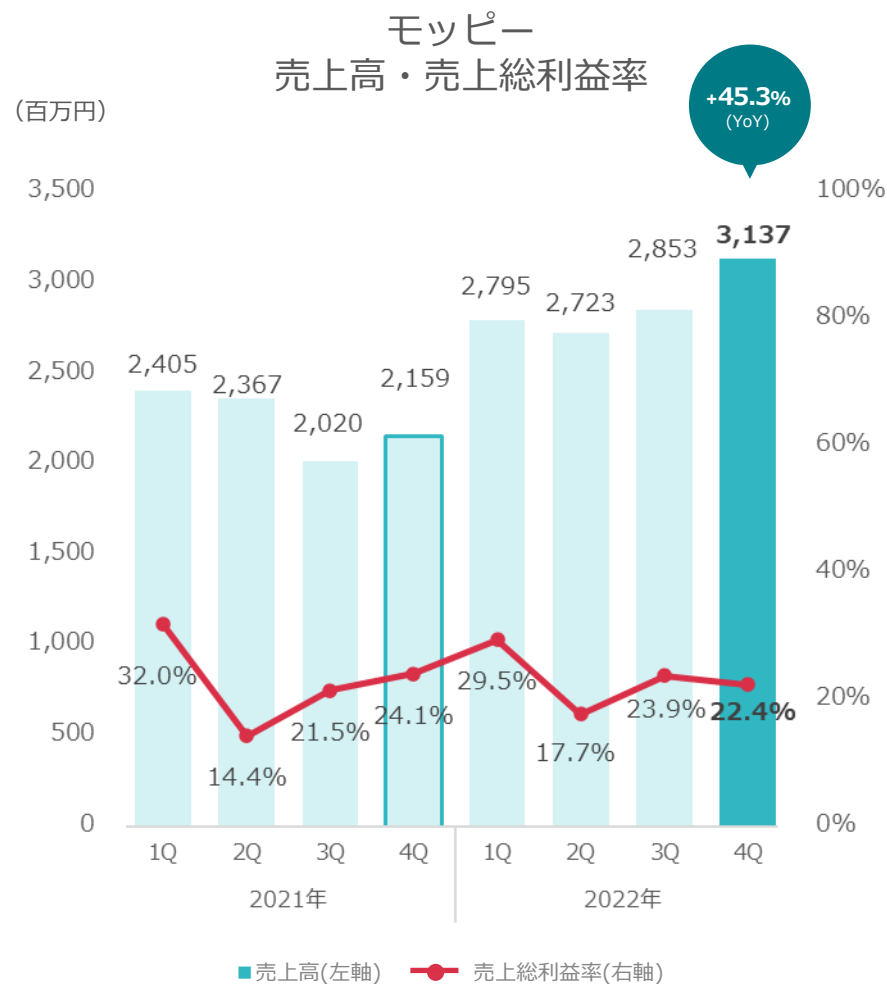
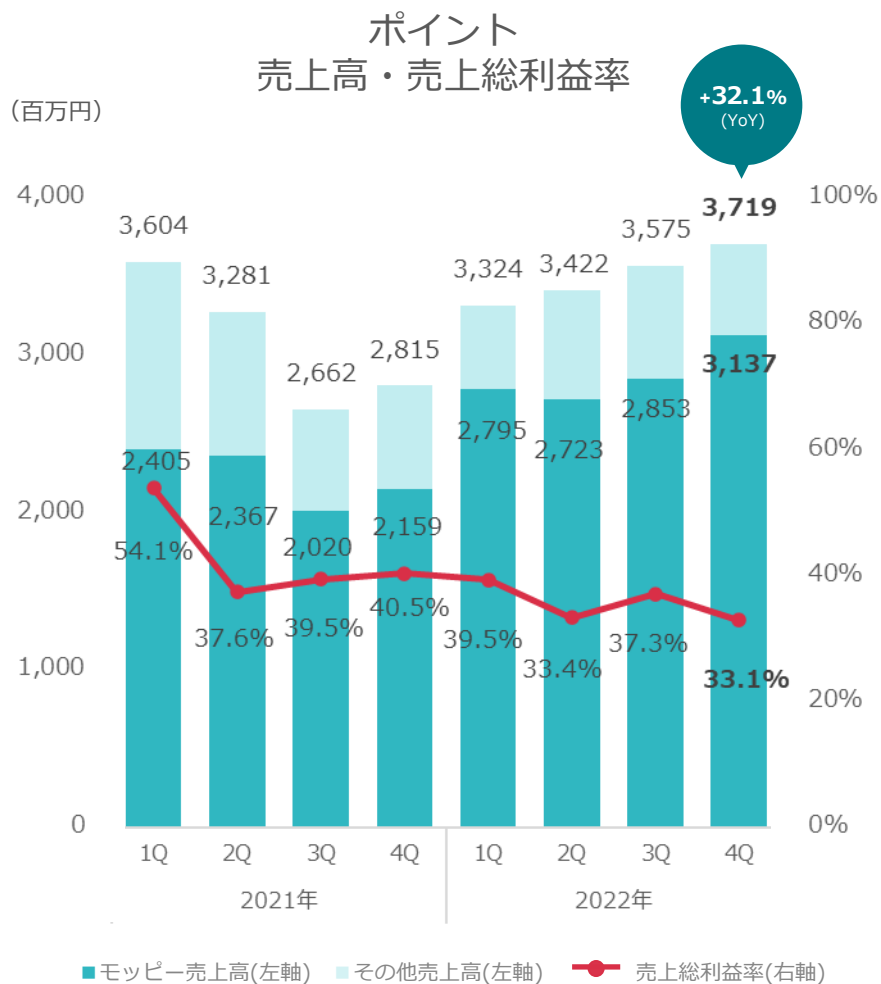
ポイントの業績推移（年推移）

モッピー好調により他事業の苦戦をカバーしポイント全体では13.6%増収
AD.TRACKと記事広告型メディアの減収により売上総利益率は35.7%に低下



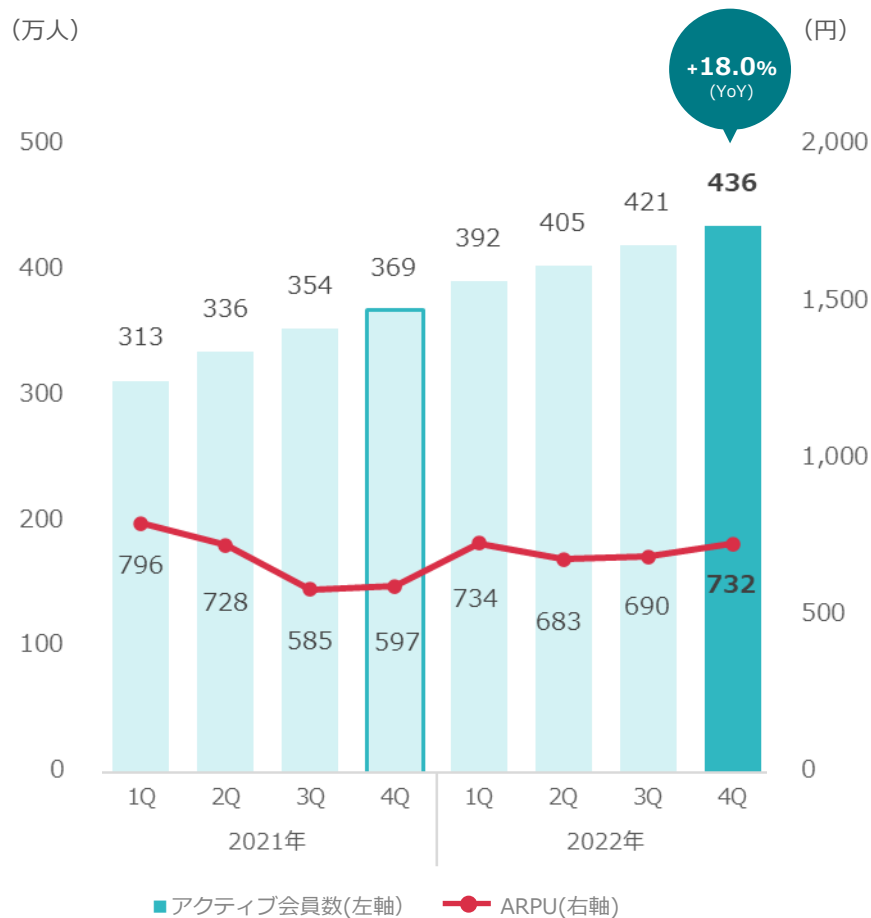
ポイントの業績推移（四半期推移）

モッピーが好調に推移、他事業も堅調に推移し32.1%の大幅増収
 モッピーは過去最高売上高で四半期売上高は30億円を突破

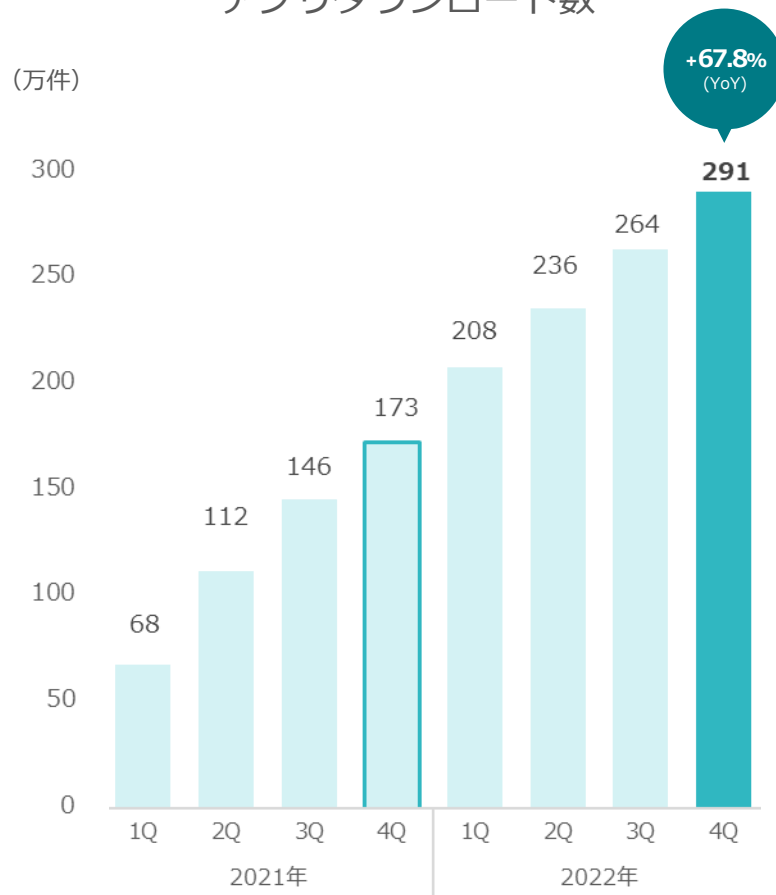


物価高騰などによる消費者の生活防衛意識の高まりが追い風に ポイント活用でお得に生活する“ポイ活”に注目が集まり会員数が順調に増加

アクティブ会員数・ARPU

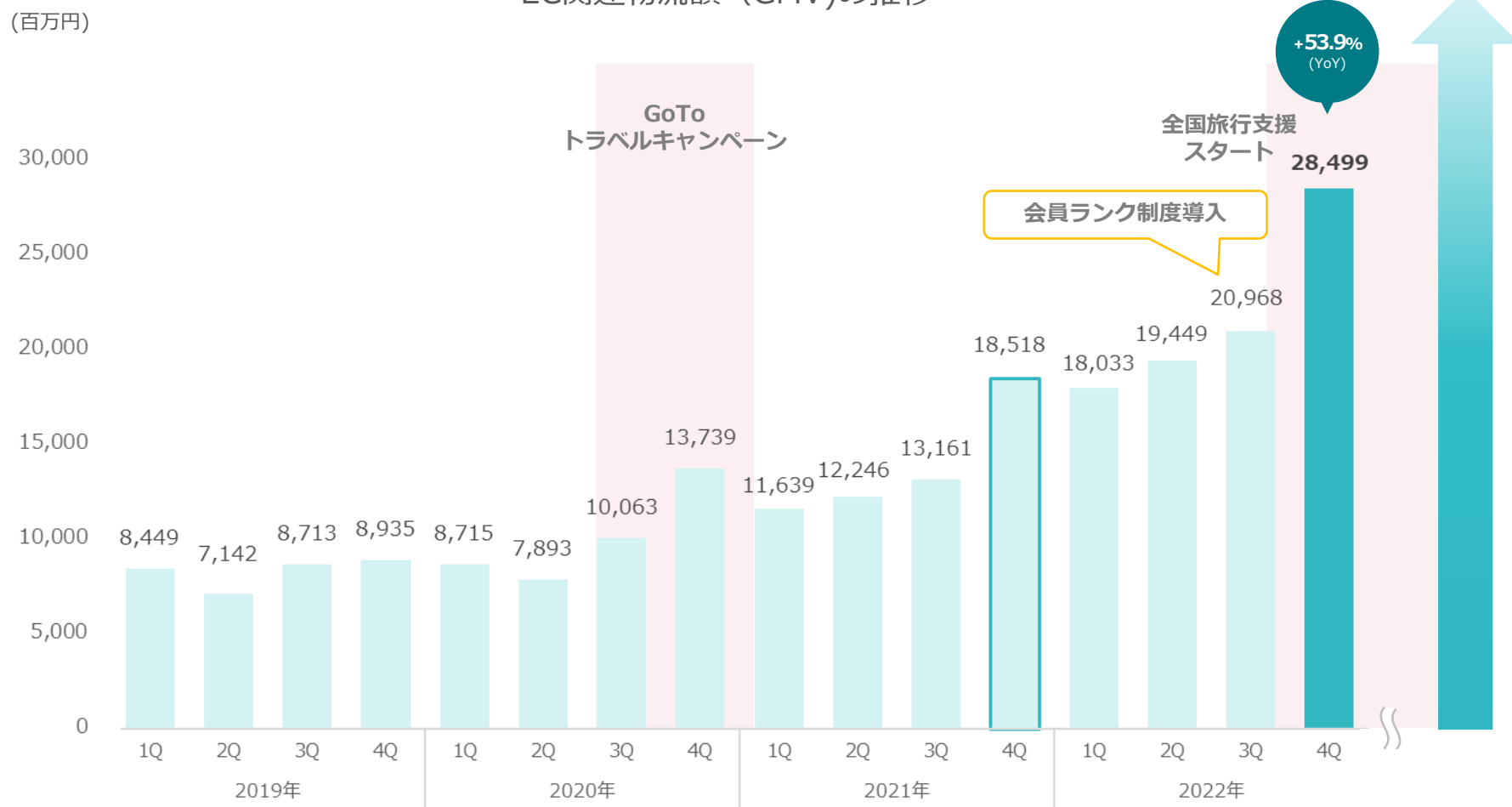


アプリダウンロード数

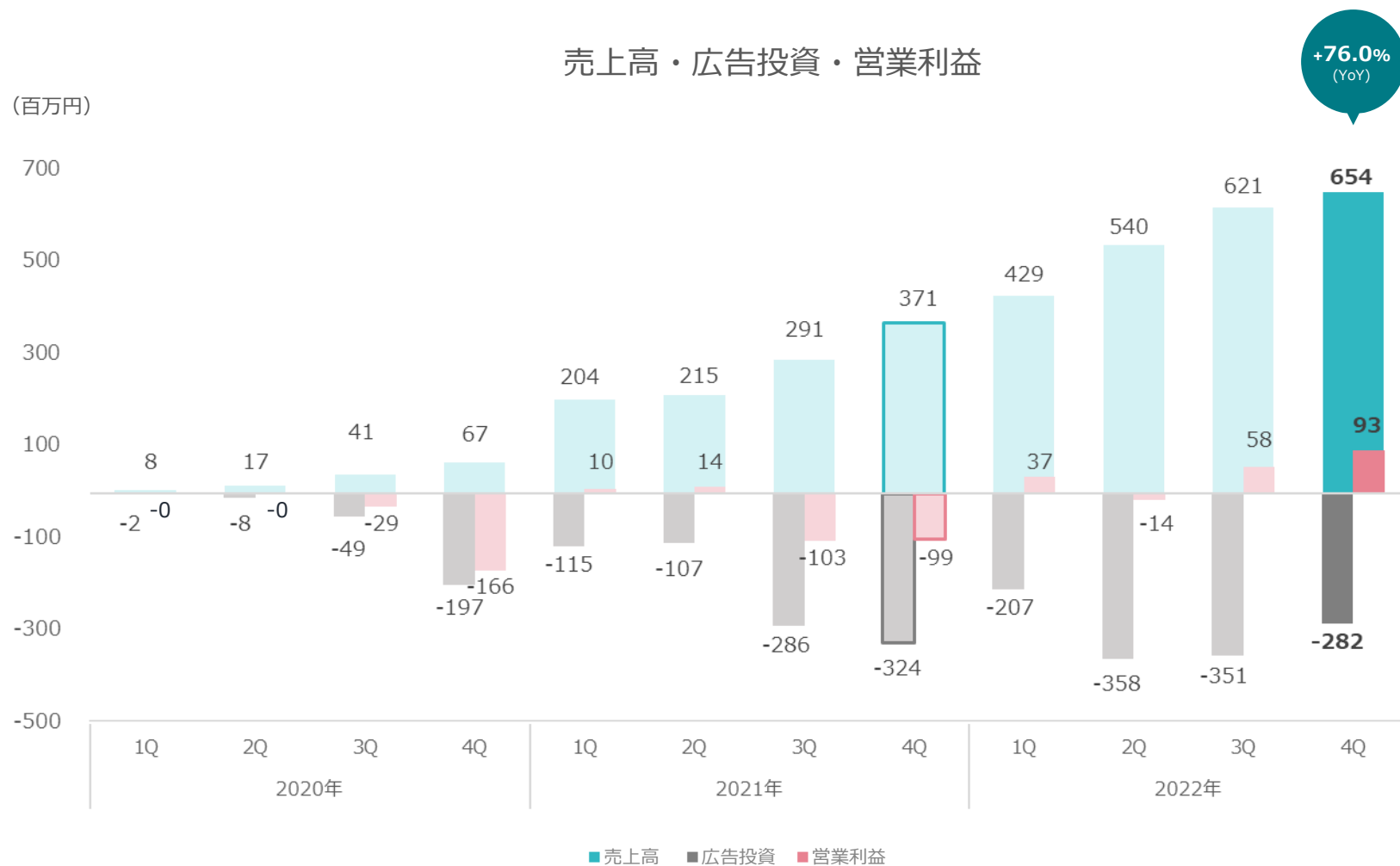


会員ランク制度導入によりモッピーを經由したEC利用が活性化 2022年通期でのGMVは前年同期比56.5%増の869億円と大きく伸長

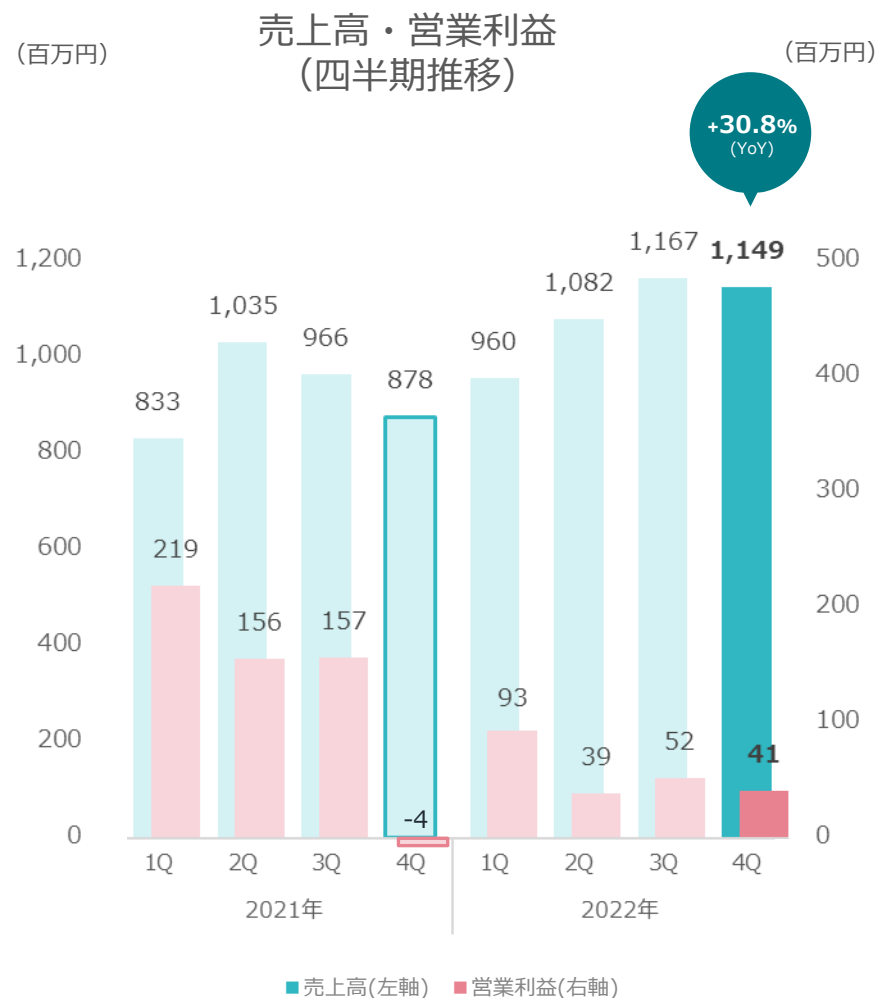
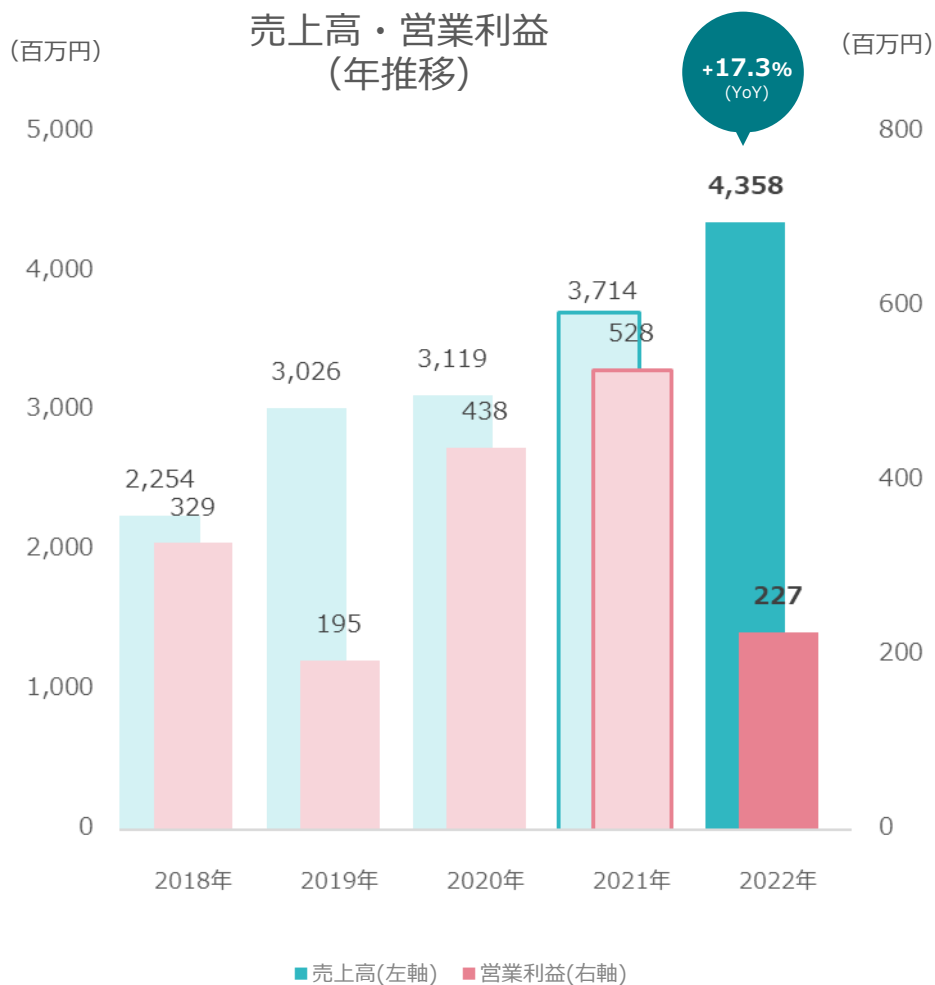
EC関連物流額（GMV）の推移



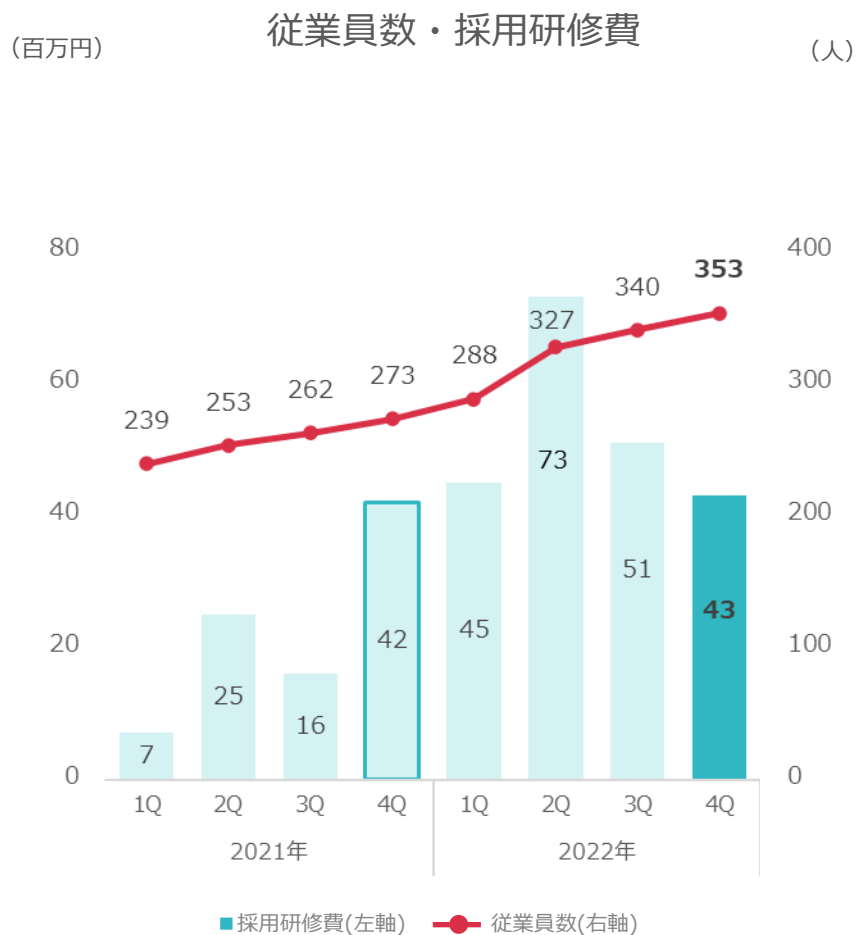
健康食品および新商品のインソールが好調に推移し76.0%と大幅増収 広告効率の低下で一部広告予算の未消化が発生し営業利益は93百万円



旺盛なDX・内製化支援需要取り込みに成功し通期では17.3%増収で過去最高
営業利益は積極的な人材投資によるコスト増で例年と比べ低水準にとどまる



採用ブランディングに成功しエンジニアの採用が好調に推移 2022年の30名に続き2023年には67名の新卒エンジニアが入社予定



エンジニアが選ぶ開発者体験が 良いイメージのある企業ランキング 「Developer eXperience AWARD 2022」

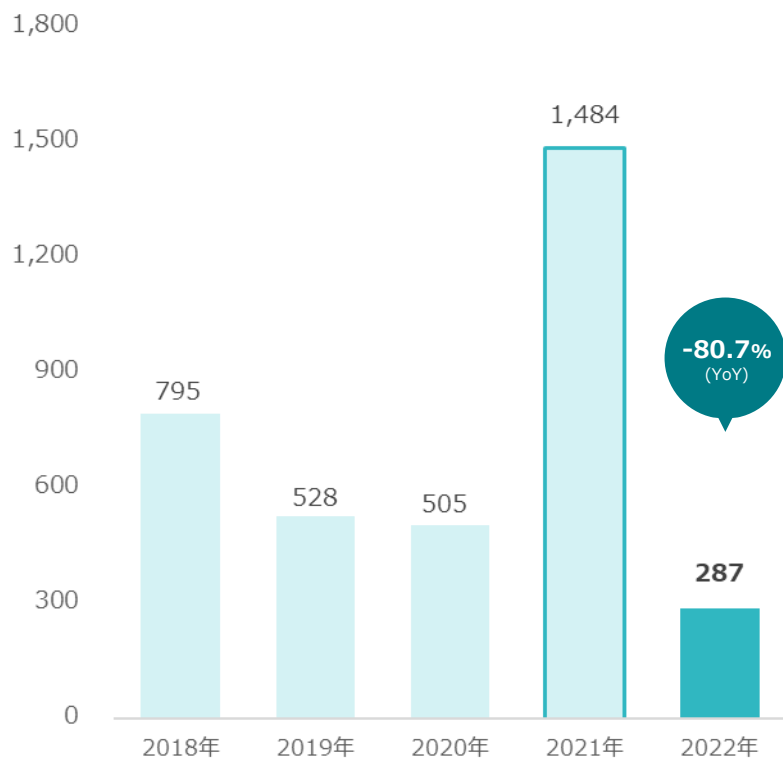
1位	株式会社メルカリ
2位	Google LLC
3位	LINE 株式会社
4位	ヤフー株式会社
5位	株式会社サイバーエージェント
6位	サイボウズ株式会社
7位	株式会社 SmartHR
8位	Microsoft Corporation
9位	株式会社ディー・エヌ・エー
10位	株式会社ゆめみ
11位	クックパッド株式会社
12位	クラスメソッド株式会社
13位	Ubie 株式会社
14位	Freee 株式会社
15位	株式会社 ZOZO
16位	Amazon.com, Inc.
17位	株式会社 LayerX
18位	Amazon Web Services, Inc.
19位	Sansan 株式会社
20位	株式会社マネーフォワード

※ 日本CTO協会 : <https://cto-a.org/news/2022/05/12/7631/>

株式売却減少により売上高11.0億円、営業利益8.4億円の減収減益要因に マーキュリーの積極投資、BBの暗号資産価格の下落により大幅損失

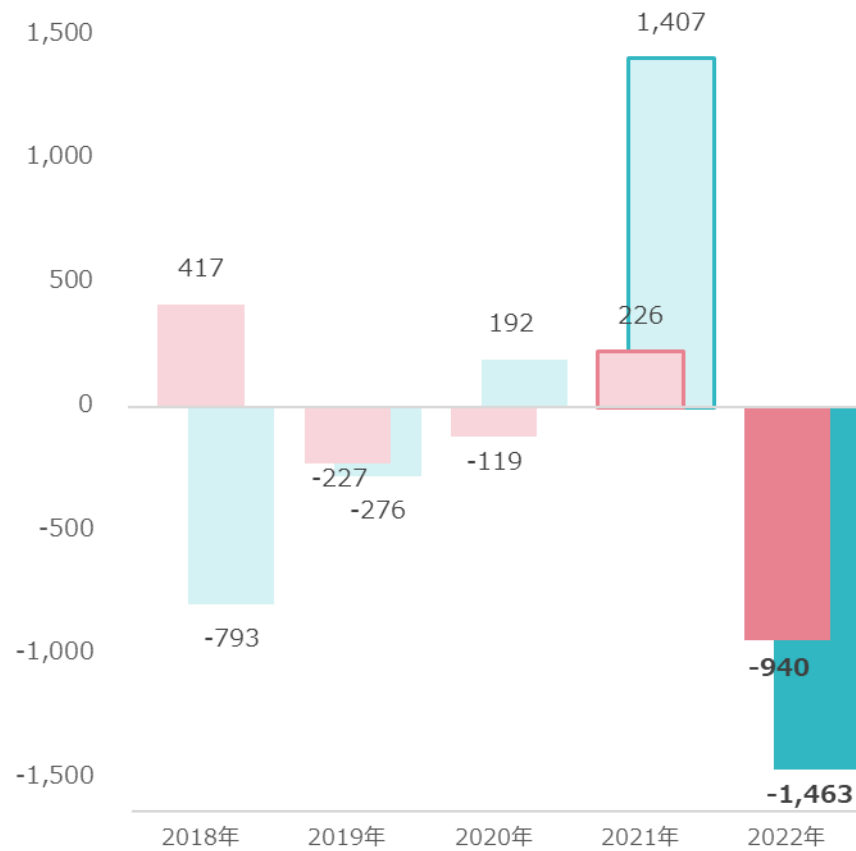
(百万円)

売上高



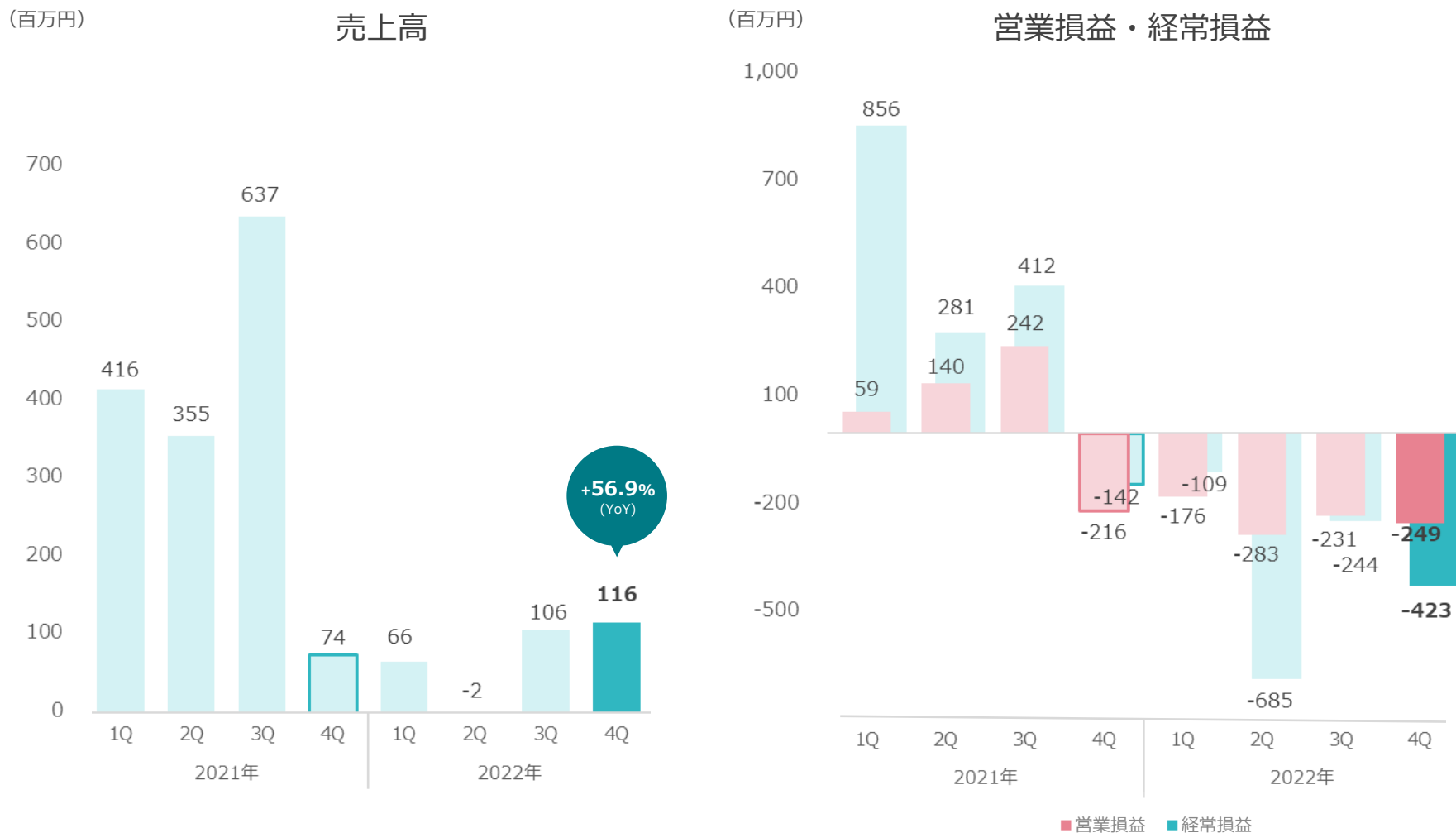
(百万円)

営業損益・経常損益

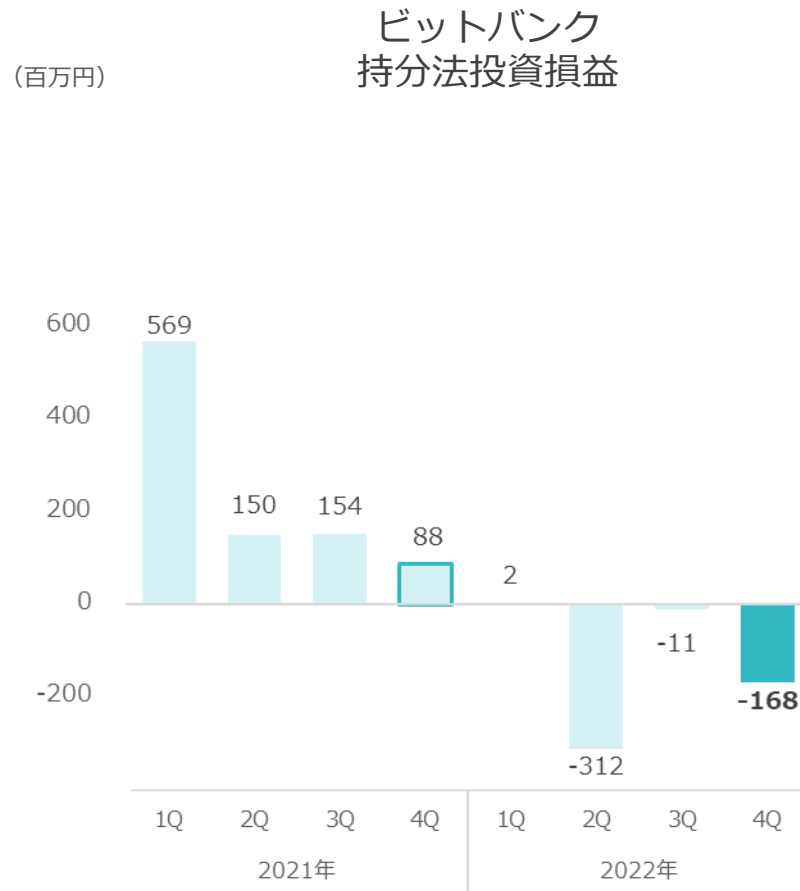
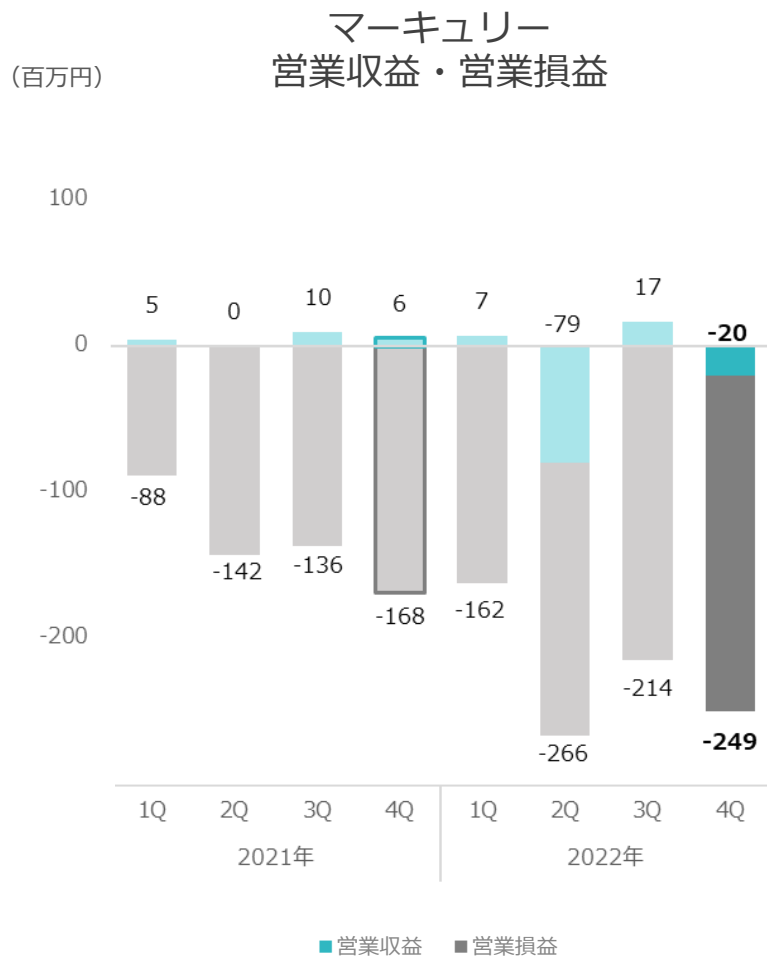


■ 営業損益 ■ 経常損益

株式売却増加およびラボルの事業好調により56.9%と大幅増収 マーキュリーの積極投資、BBの暗号資産価格の下落により大幅損失に



暗号資産価格の下落によりマーキュリーの通期営業収益は75百万円のマイナス
積極投資で通期892百万円の営業損失、BB持分法投資損失は通期489百万円





4. 2023年業績予想・成長戦略

2023年12月期 業績予想

(単位：百万円)	2023年12月期 予想	2022年12月期	前年同期比	前年増減額
売上高	23,000 (100.0%)	20,536 (100.0%)	+12.0%	+2,463
営業利益	1,600 (7.0%)	1,246 (6.1%)	+28.3%	+353
経常利益	1,600 (7.0%)	679 (3.3%)	+135.3%	+920
当期純利益※1	800 (3.5%)	46 (0.2%)	+1616.5%	+753
EBITDA※2	2,100 (9.1%)	1,147 (5.6%)	+83.0%	+952
配当金	20.00円	20.00円		
EPS	70.24円	4.12円		
配当性向	28.5%	484.9%		

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

セグメント業績予想

(単位：百万円)	売上高		営業利益	
	2023年12月期 予想	2022年12月期	2023年12月期 予想	2022年12月期
全社	23,000 YOY +12.0%	20,536	1,600 YOY +28.3%	1,246
モバイルサービス事業	22,350 YOY +9.3%	20,447	3,700 YOY +12.4%	3,291
ポイント	14,700 YOY +4.7%	14,041	3,350 YOY +11.8%	2,995
D2C	2,700 YOY +20.2%	2,246	200 YOY +14.2%	175
DX	5,200 YOY +19.3%	4,358	300 YOY +31.6%	227
セグメント内取引高	-250 YOY -	-199	-150 YOY -	-106
フィナンシャルサービス事業	750 YOY +161.3%	287	-1,000 YOY -	-940
セグメント間取引高/調整額	-100 YOY -	-198	-1,100 YOY -	-1,103



売上高は前年同期比12.0%増の23,000百万円を計画

- モバイルサービスはポイントのモッピーにおける安定的な会員増を見込む
D2Cは商品ラインナップ拡充、DXは旺盛な需要の確実な取り込みを図る
- フィナンシャルサービスはマーキュリーにおけるサービス拡充・強化
ラボルの事業拡大を図る、CVCの株式売却は見込まず

営業利益は前年同期比28.3%増の1,600百万円を計画

- モバイルサービスはモッピーが引き続き利益の柱
D2C・DXは引き続き積極投資もコスト最適化による増益を図る
- フィナンシャルサービスはマーキュリー・ラボルで積極投資により営業損失

経常利益は前年同期比135.3%増の1,600百万円を計画

- 暗号資産価格相場の予想が困難なためBBの持分法投資損益には含まず
- BBの持分法損益はゼロ程度で想定

2023年中にモッピーはフィンテック機能搭載により決済アプリに進化を計画 ポイント経済圏をリアルにも拡大、モッピーアプリの利便性を向上

moppy



ユーザー会員



使う

ポイント
還元

オンライン決済で



リアル店舗で

- モッピーポイントでそのまま決済
- 決済利用でもモッピーポイントが貯まる

- QUICPay
- Visaのタッチ決済

が利用可能

- ユーザーエンゲージメントが高まることによる利用頻度向上
- 利便性向上によるユーザー数の増加

フィンテック機能



リアル店舗でのスマホ決済
(非接触のNFC決済機能)



オンライン決済
(ブランドプリペイド決済機能)



ポイントの
ユーザー間送金



後払い
チャージ機能

2023年
4-6商品大量投入予定

New!

新カテゴリ



New!

健康関連商品



New!

美容関連商品

商品戦略

リアル店舗

インターネットでリーチ困難な顧客層へのアプローチ
⇒ 全国の一部ドラッグストア、小売店等で販売開始

ECモール

従来とは異なるインターネット購買層の獲得
⇒ ECモール（Amazon/楽天市場 等）への販売の強化

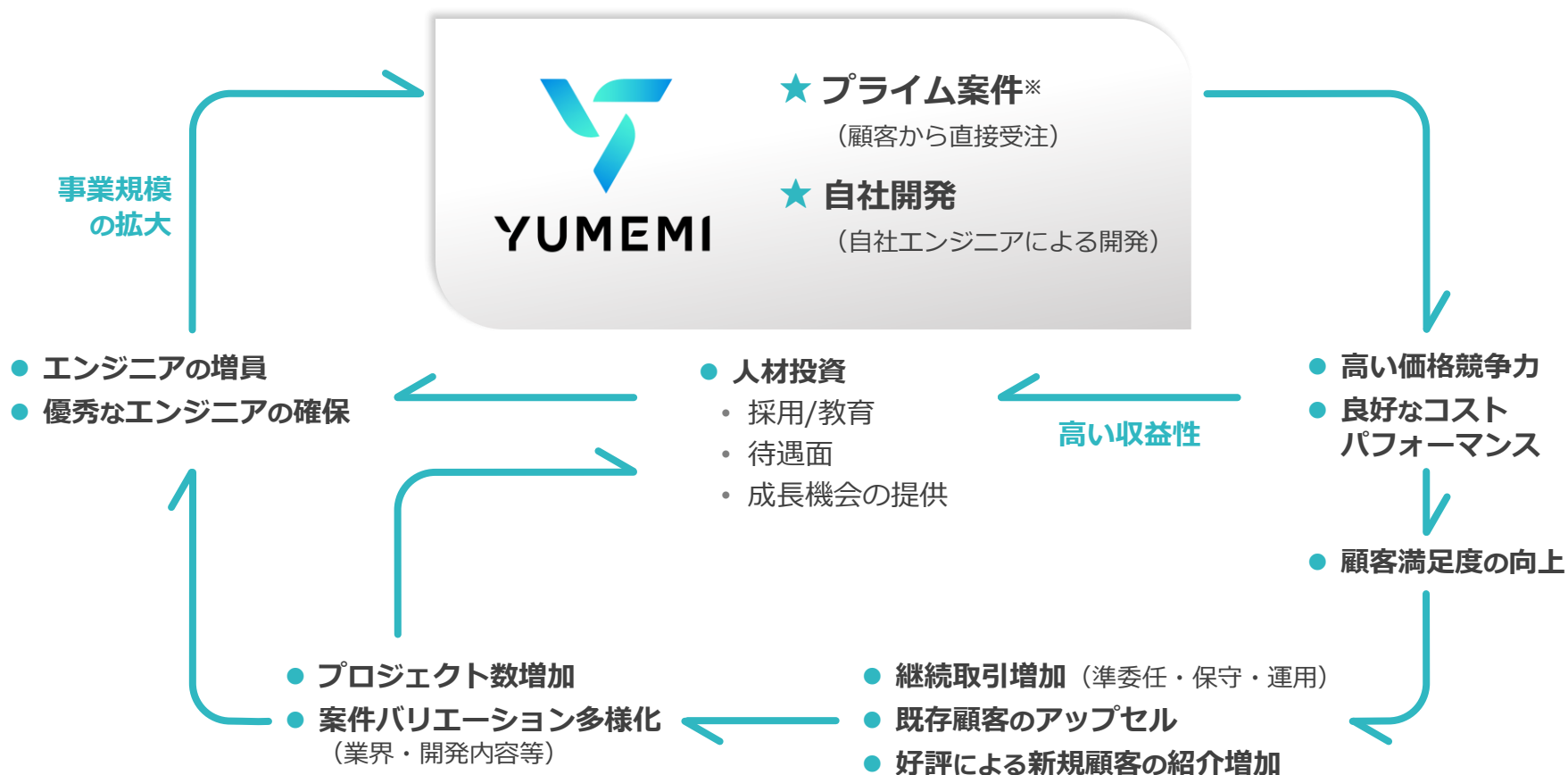
自社サイト

- 訴求力のあるクリエイティブ
- 運用力の向上
- CRMの強化
- ▶ CTR、CVR向上
- ▶ CPO効率化によるROASの向上
- ▶ アップセル・クロスセルの増加と継続率向上

マーケティング戦略

プライム案件の受注、自社での開発により高付加価値なサービスを提供
顧客満足度向上、プロジェクト増、エンジニア増の事業成長サイクルを描く

事業成長イメージ



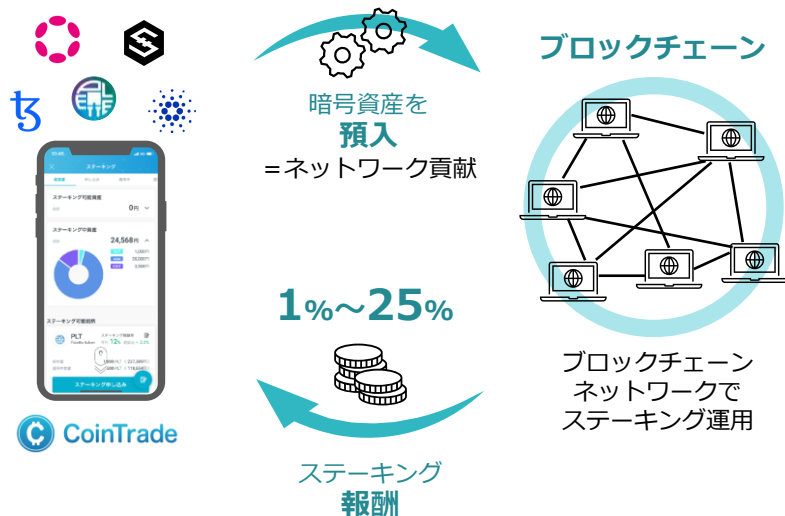
※ 中間ベンダーを経由せず顧客から直接受注する案件。

ステーキングサービス「CoinTrade Stake」でテゾス(XTZ) を取り扱い開始 全5通貨でステーキングが可能となり、保有資産を有効活用

5通貨での現在のステーキング総額 ¥323,642,644 (1月31日時点)

ステーキングとは

ステーキングとは、暗号資産を預けて、ブロックチェーンのネットワークに参加することで、対価として報酬が貰える仕組み。



CoinTrade 取扱銘柄



BTC
ビットコイン



ETH
イーサリアム



XRP
リップル



BCH
ビットコイン
キャッシュ



LTC
ライトコイン

CoinTradeStake 取扱銘柄



PLT
パレットトークン
APR
10%~25%



IOST
アイオーエスティー
APR
5%~12%



ADA
カルダノ
APR
1%~4%



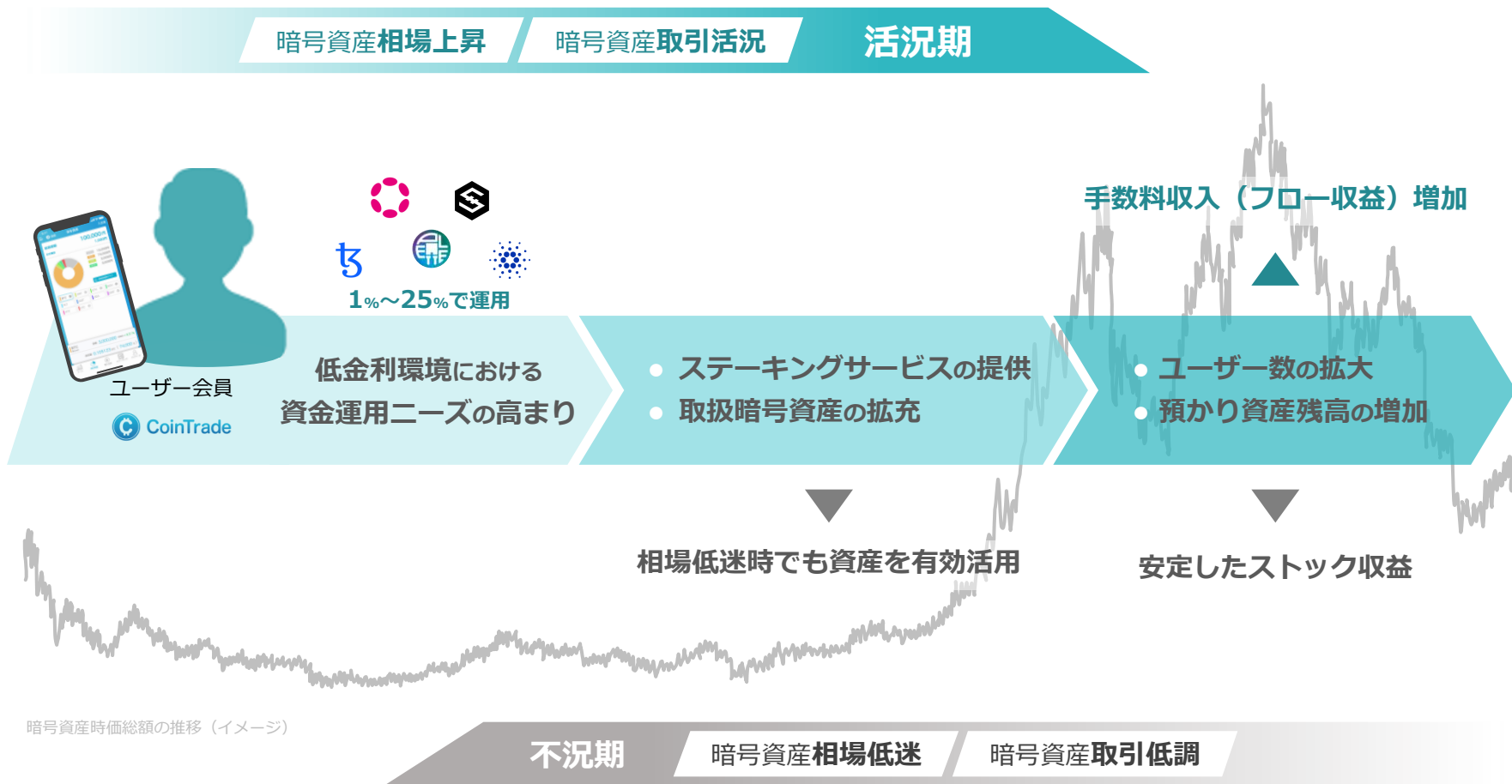
DOT
ポリカドット
APR
5%~11%



XTZ
テゾス
APR
2%~5%

※ 記載されている年間想定利回り (APR) は目安となります

ステーキングサービスの充実、取り扱い通貨の拡充によりユーザー数の増加
預かり資産残高の増加を図り、安定した収益モデル確立を目指す



国内トップクラスの暗号資産取引量

⇒ アルトコインの取引量国内No.1

自社開発ウォレットによる
高度なセキュリティ

日本デジタルアセットトラスト 設立準備株式会社 (JADAT) 設立

JADAT
日本デジタルアセットトラスト設立準備株式会社

bitbank



三井住友トラストホールディングス
Mitsui Sumitomo Trust Holdings

2社の強みを融合し共同で設立した、
デジタルアセット※の資産管理サービスを行
う信託の準備会社。

※暗号資産をはじめとするパブリック型ブロックチェーンセキュリティトークン、ステーブルコインおよびNFT等

● 暗号資産の信用取引サービス開始予定

● 取扱い銘柄を今後も順次拡大

⇒ 取扱い暗号資産銘柄数国内No.1を目指す

● 信託ライセンスの取得

● 暗号資産・ステーブルコイン・NFT等の取扱い

✓ ユーザー数の増加

✓ 取引の活性化

✓ 収益の拡大

✓ 機関投資家の取込み

✓ ビジネス需要の取込み

✓ 安定したストック収益

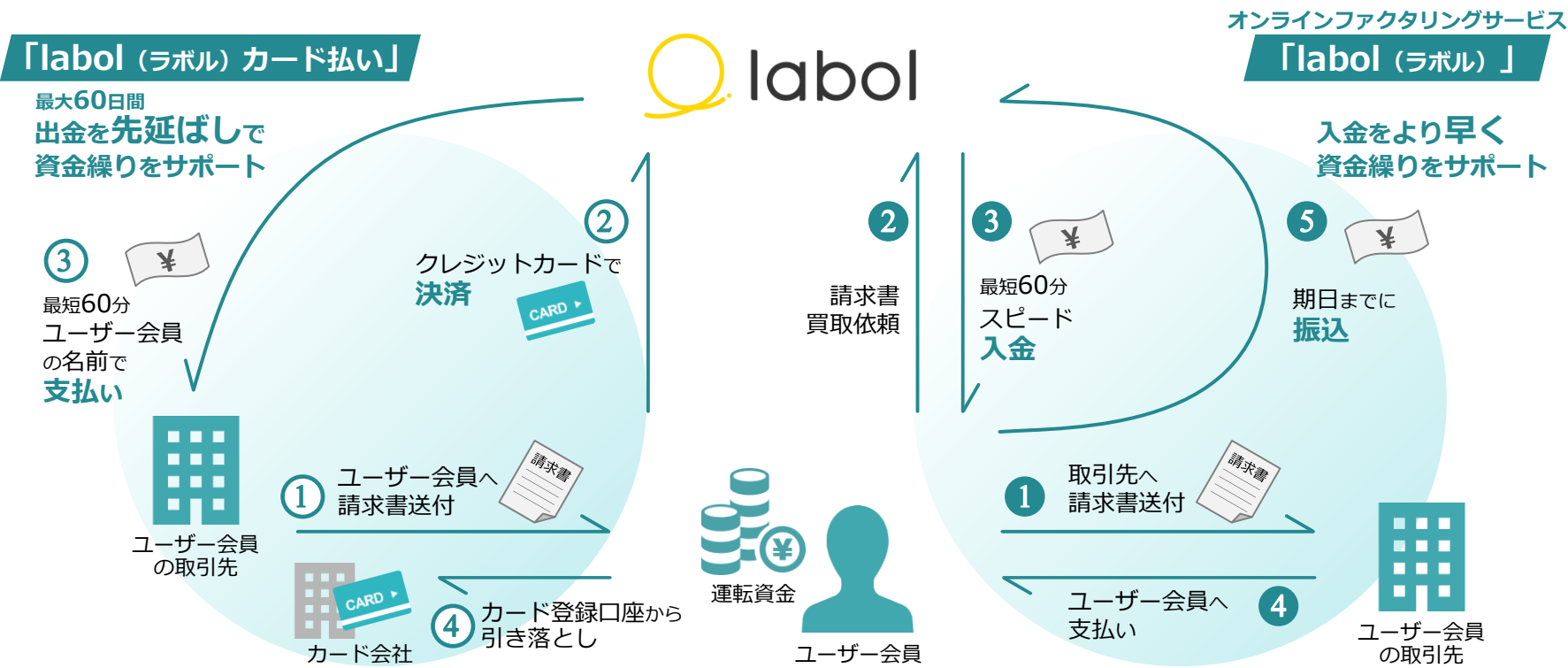
・ファンド
・機関投資家
・事業法人



国内「業界No.1」を目指す

フリーランス向けに現金振込が必要な経費をクレジットカードで決済可能に オリエントコーポレーションと連携し「label (ラボル) カード払い」をスタート

「label (ラボル)」による資金繰り支援のイメージ



label (ラボル) カード払い

クレジットカード決済を行いたい事業者と、クレジットカード決済を受け付けていない取引先（カード非加盟店）の橋渡しを行う金融サービスです。これまでクレジットカードで支払えなかった経費を手持ちのクレジットカードで決済することで最大 60 日間*におよび支払いの先延ばしが可能となります。

*利用クレジットカードの支払いサイクルによって延長できる日数は異なります。

トリドリとjig.jpが新規株式上場、出資先の株式上場は累計で8社に 2022年12月期は約4.3億円の投資を実行、新規投資先は3件

(2022年12月末)



モバイルサービスと連携

メディア・D2C関連

DINÉTTE User Like PostCoffee flicfit



PETOKOTO

ZEROUM

SOUNDRAW

フィナンシャルサービスと連携

フィンテック・ブロックチェーン関連

Infcurion



BRD

CAMPFIRE

BUNZZ

イークラウド

ISEC



5. サステナビリティの取組み

SDGs寄付プラットフォーム「モッピー×SDGs」の寄付先が1年で合計22団体に拡大し、今後も社会貢献を目指し支援団体を順次拡充予定



P

P

モッピーポイント1P
から寄付が可能

P

P

寄付先22団体



日本ユニセフ協会



ブラン・インターナショナル



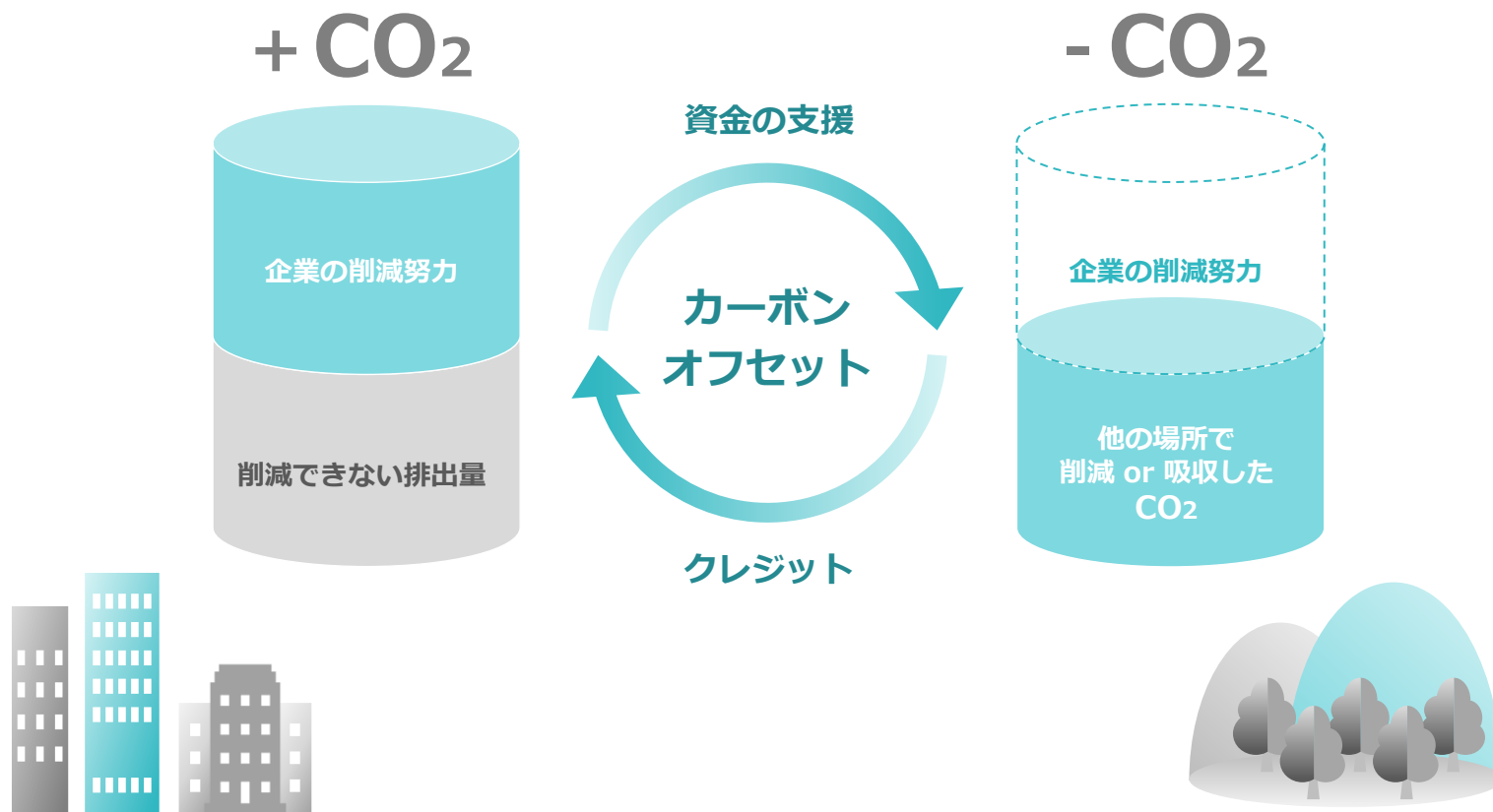
日本赤十字社



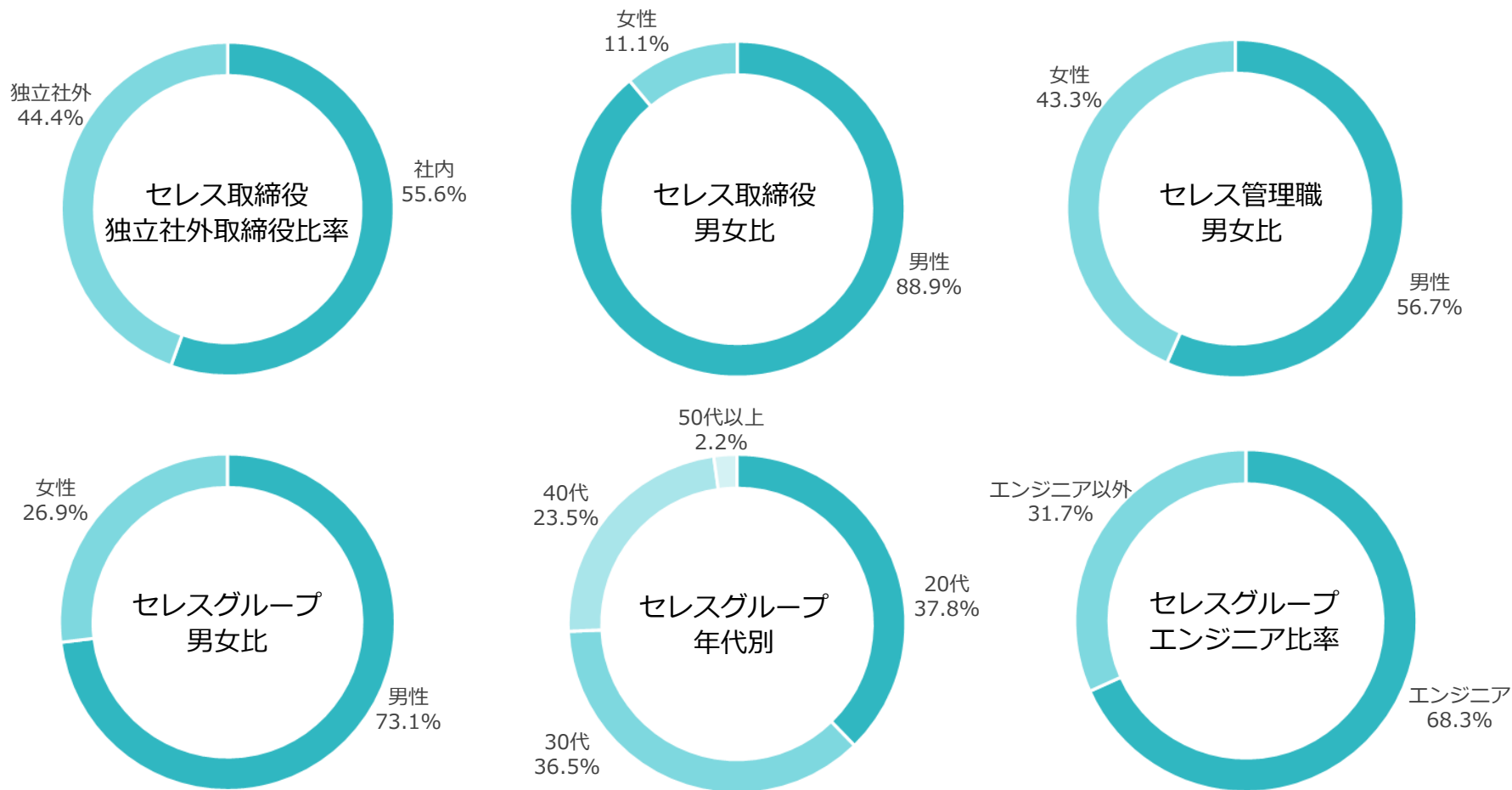
モッピーのアクティブユーザー**436**万人と共にSDGsに取り組み持続可能な社会の実現に貢献します

セレスは2021年から電力使用によるCO2排出100%オフセットを開始
2022年も「グリーン電力証書」を利用しカーボンニュートラルを達成

カーボンオフセットのしくみ



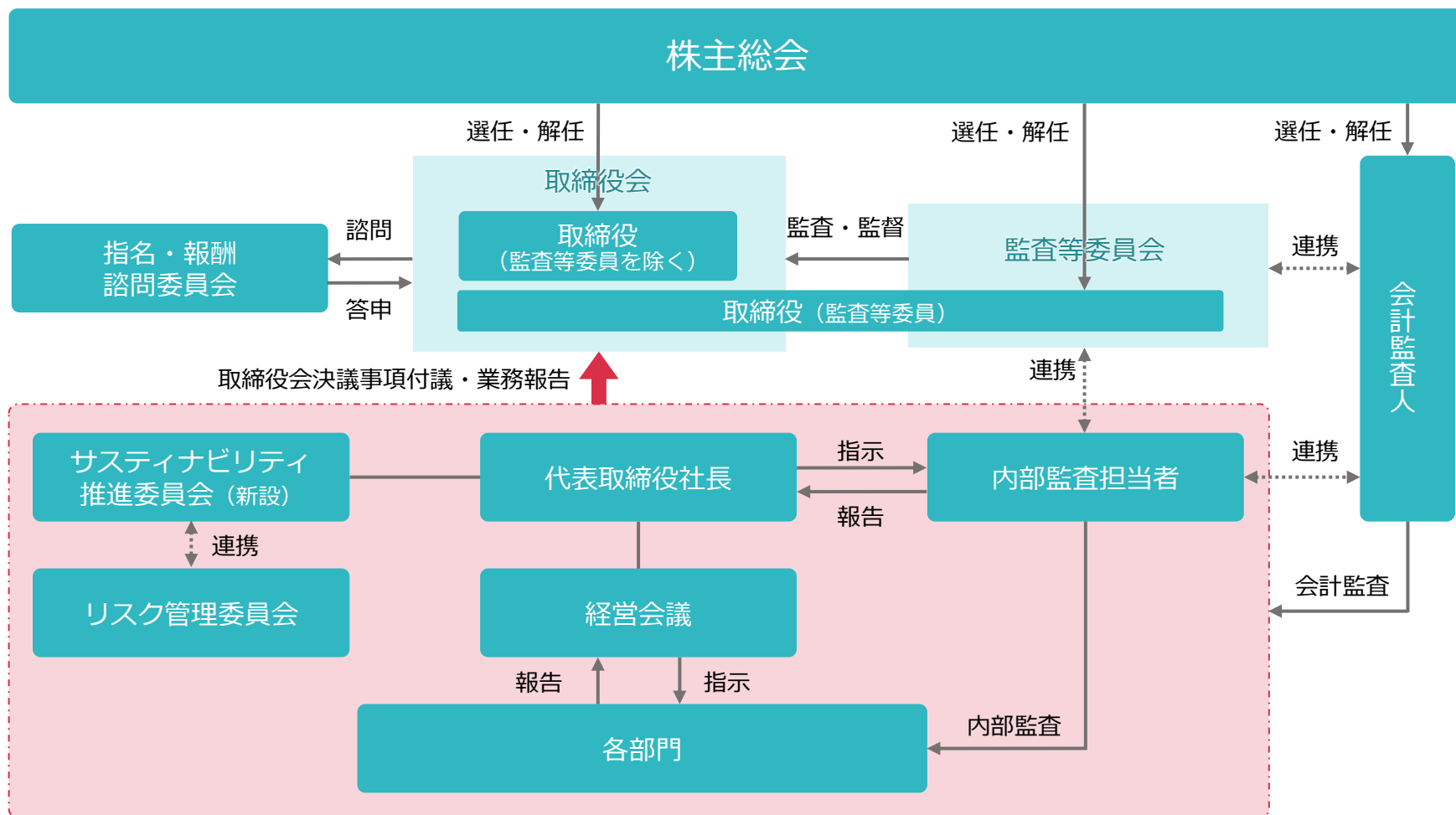
コーポレートガバナンスの取組強化により中長期的な企業価値向上へ持続的成長のためにジェンダー平等などダイバーシティの充実を推進



※ データは2022年12月末時点

サステナビリティ推進委員会設置について

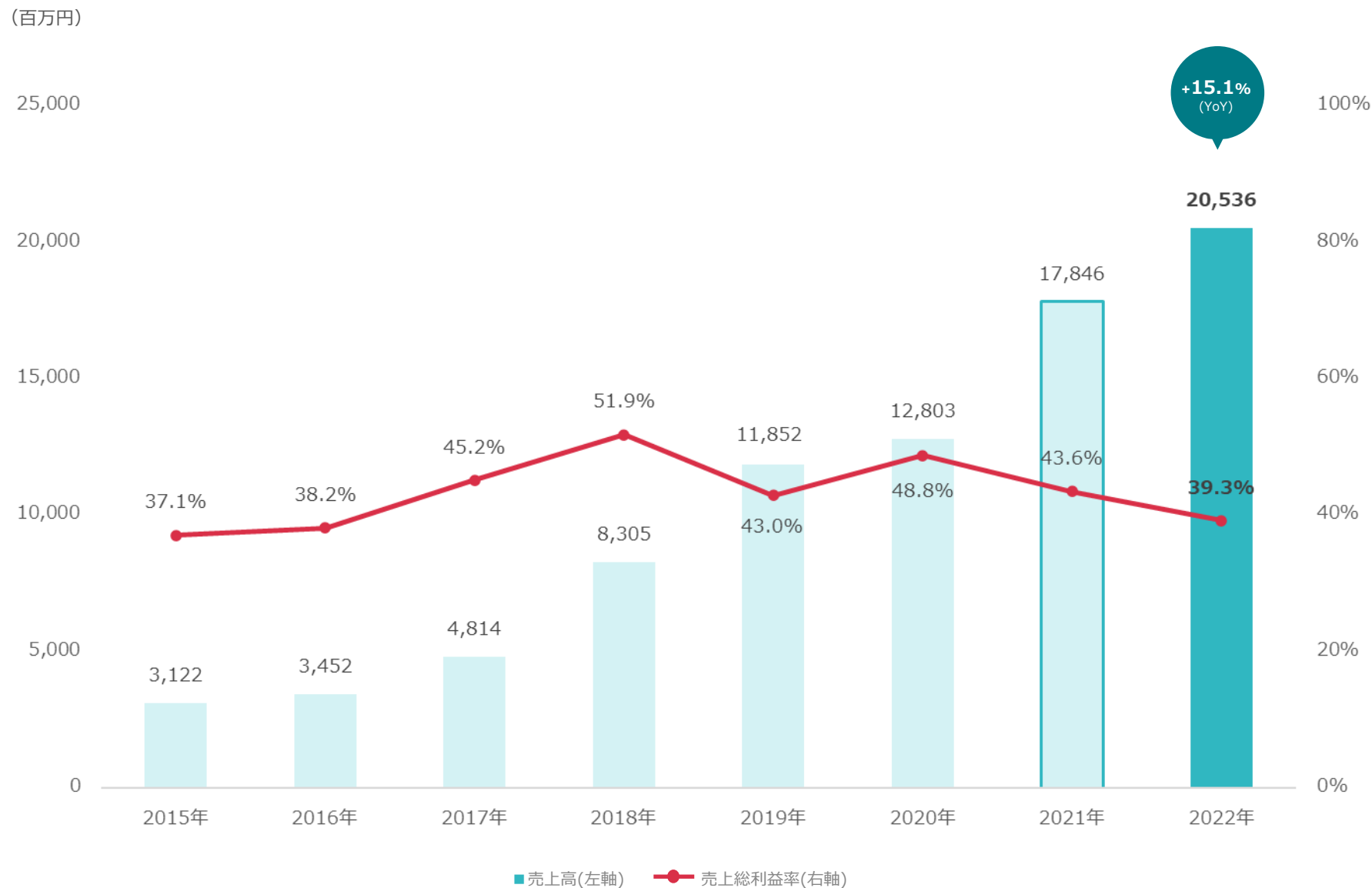
代表取締役を委員長とした「サステナビリティ推進委員会」を設置しサステナビリティ経営を推進しSDGs戦略の一層の強化を図る



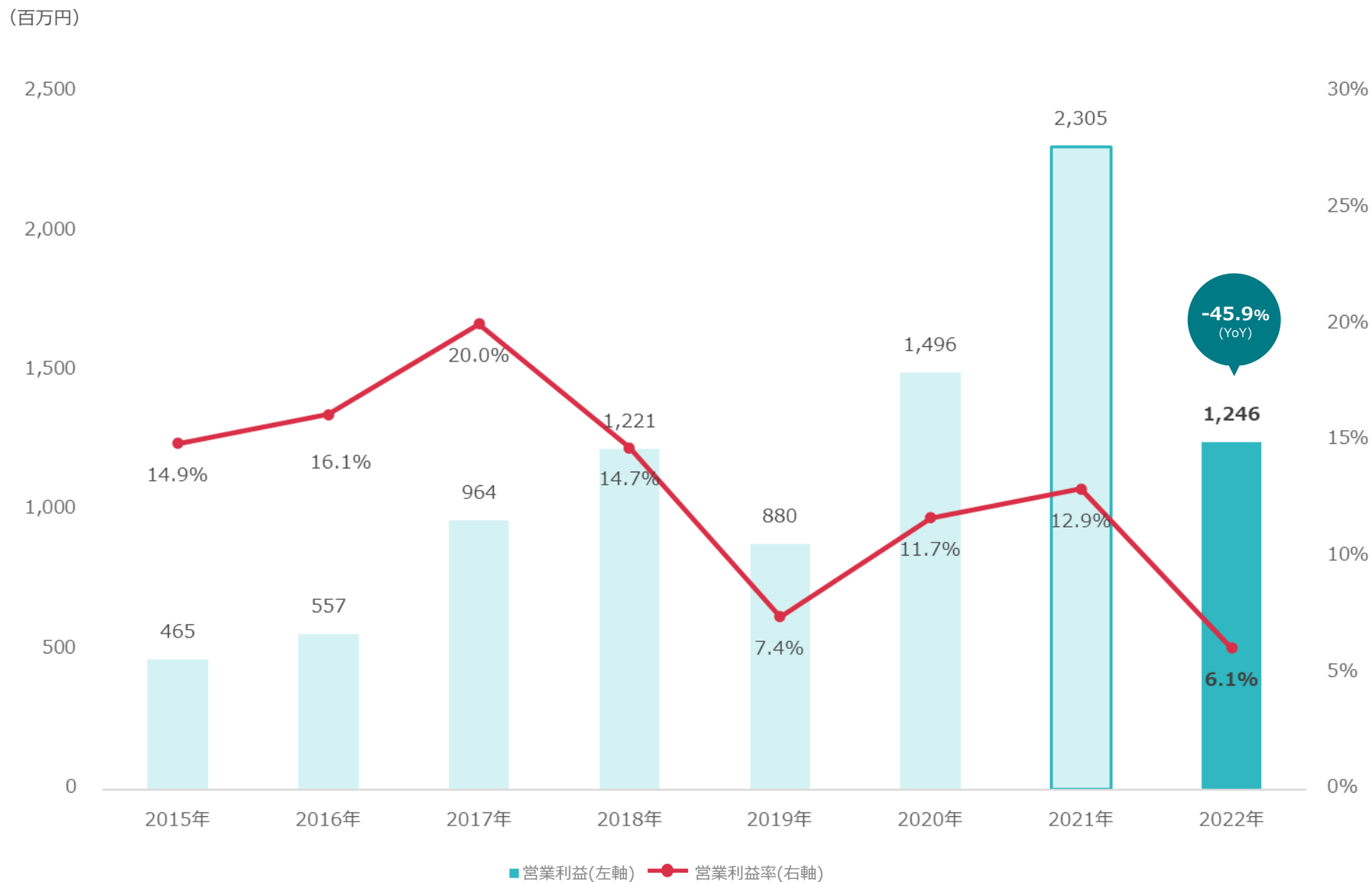


6. APPENDIX

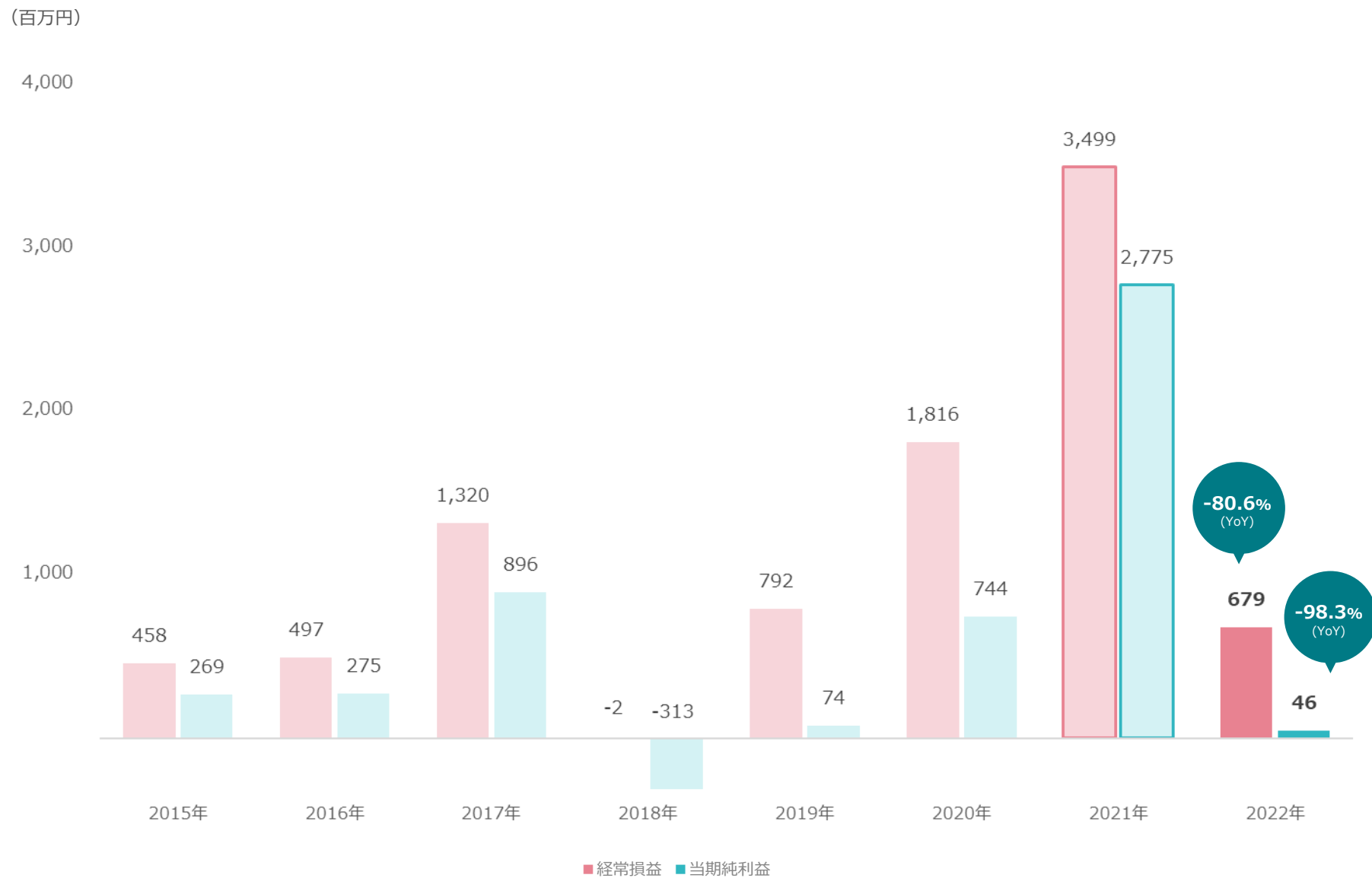
売上高推移（過去数値に新収益認識基準を適用）



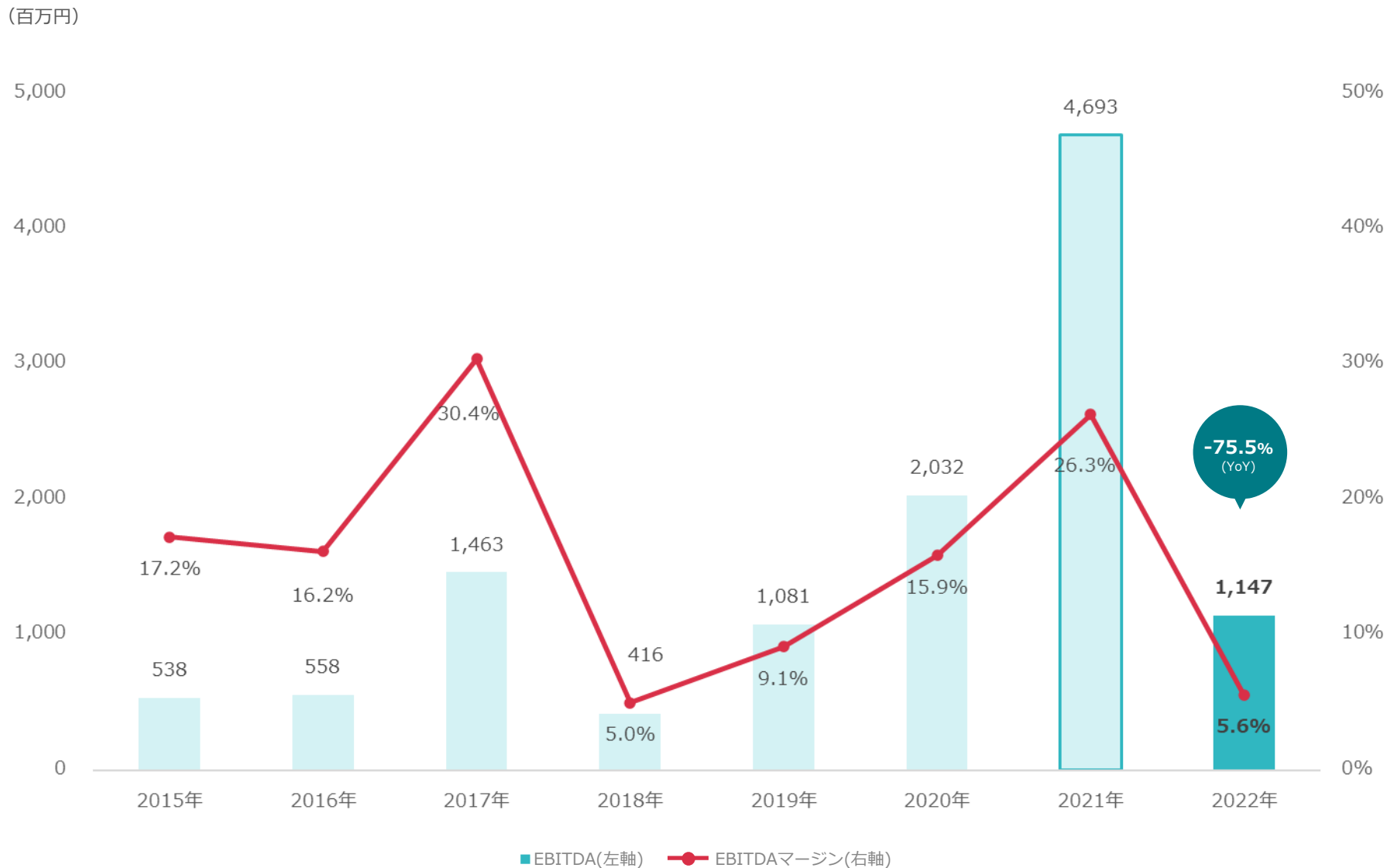
営業利益推移



經常損益・当期純利益推移

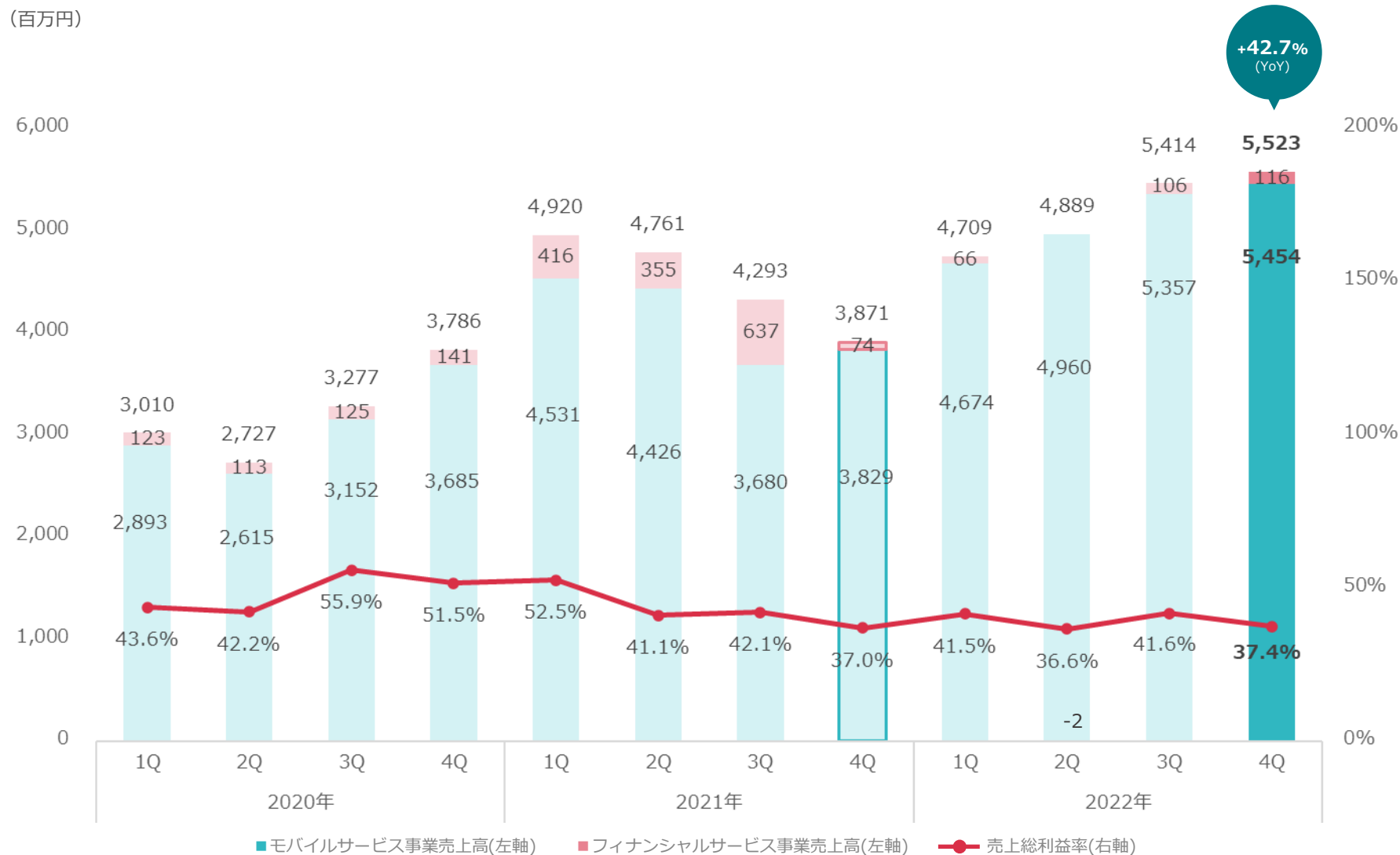


EBITDA推移



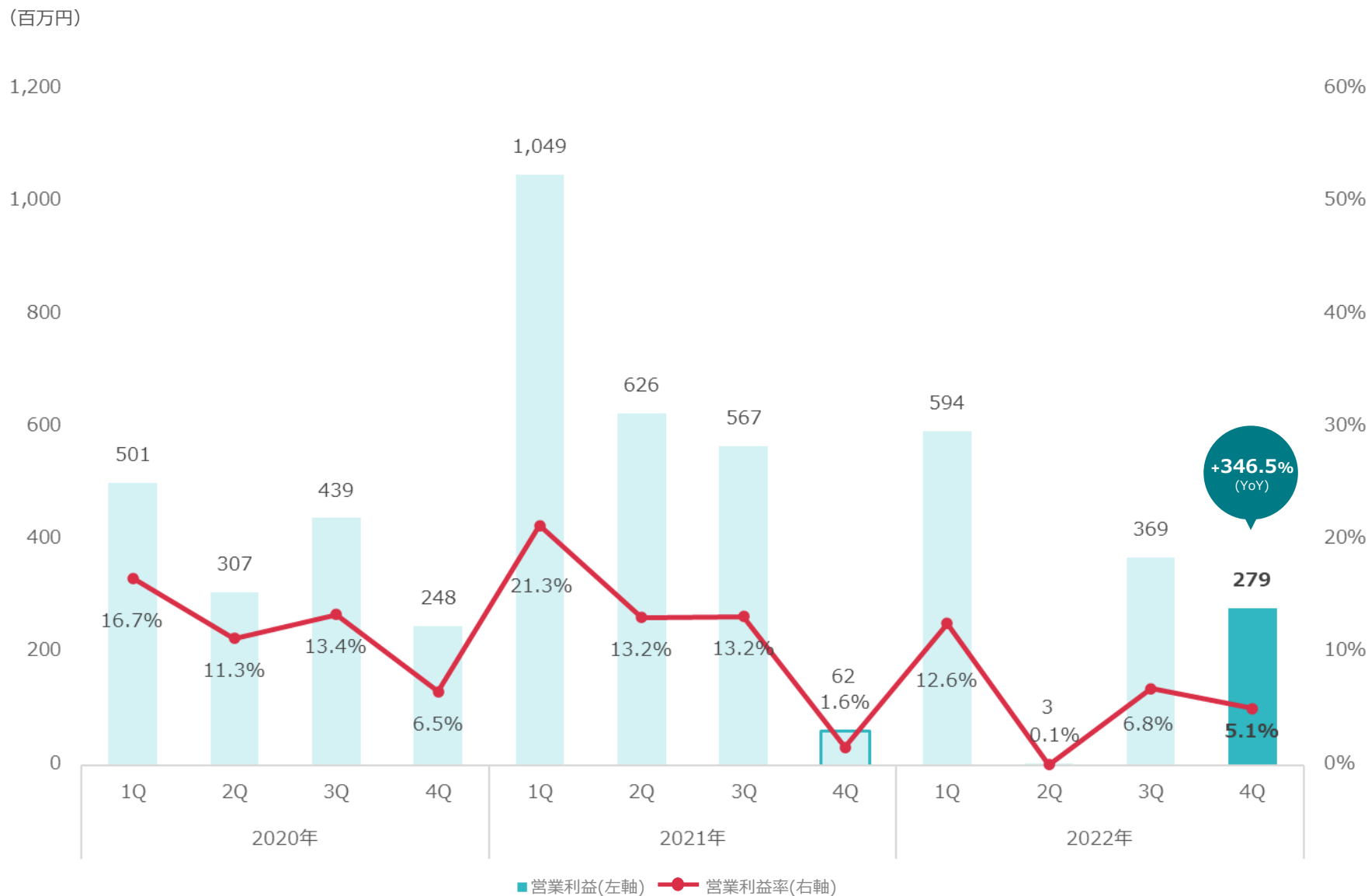
※ EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

四半期売上高推移（過去数値に新収益認識基準を適用）

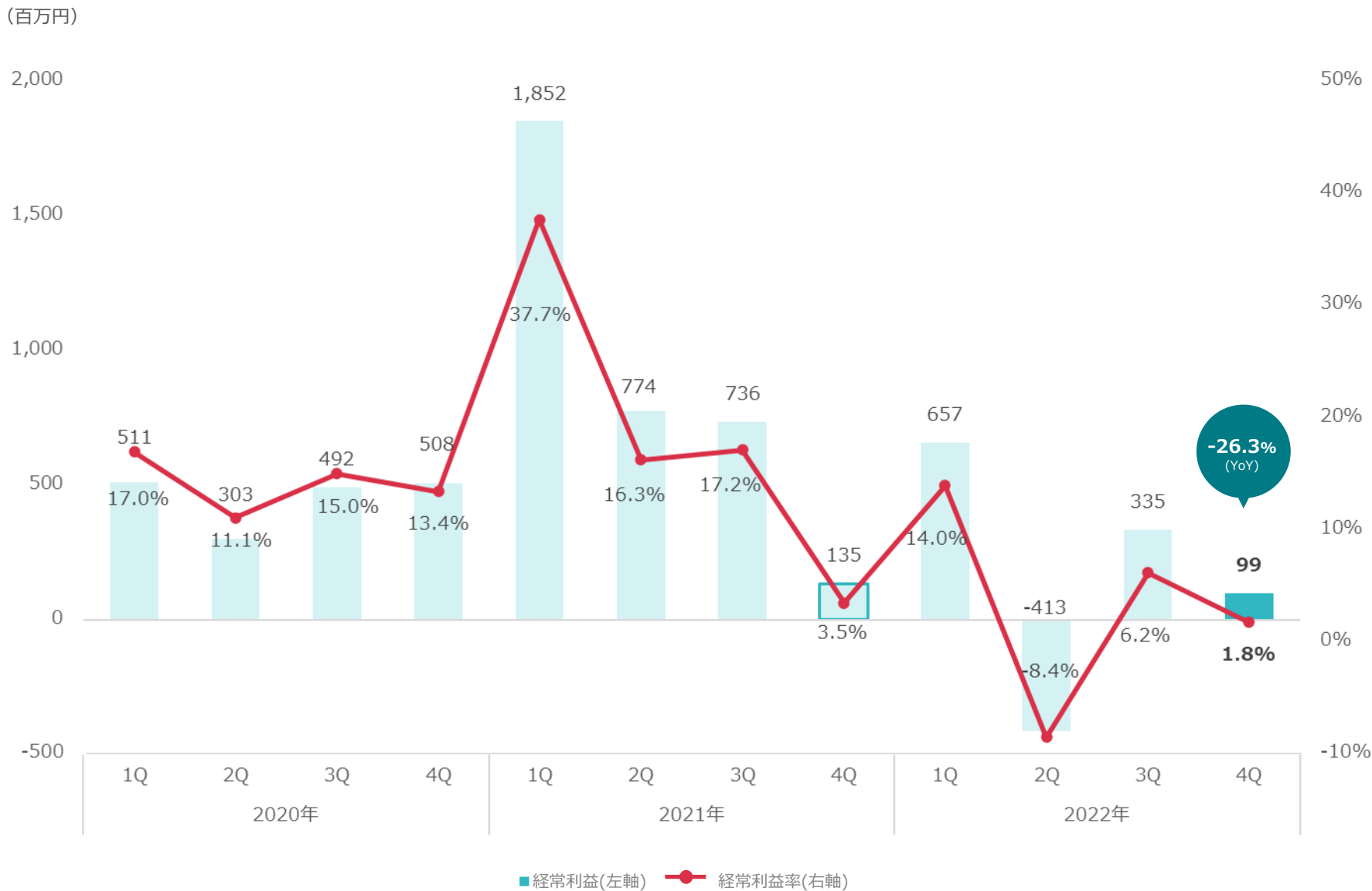


※ セグメント間の内取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

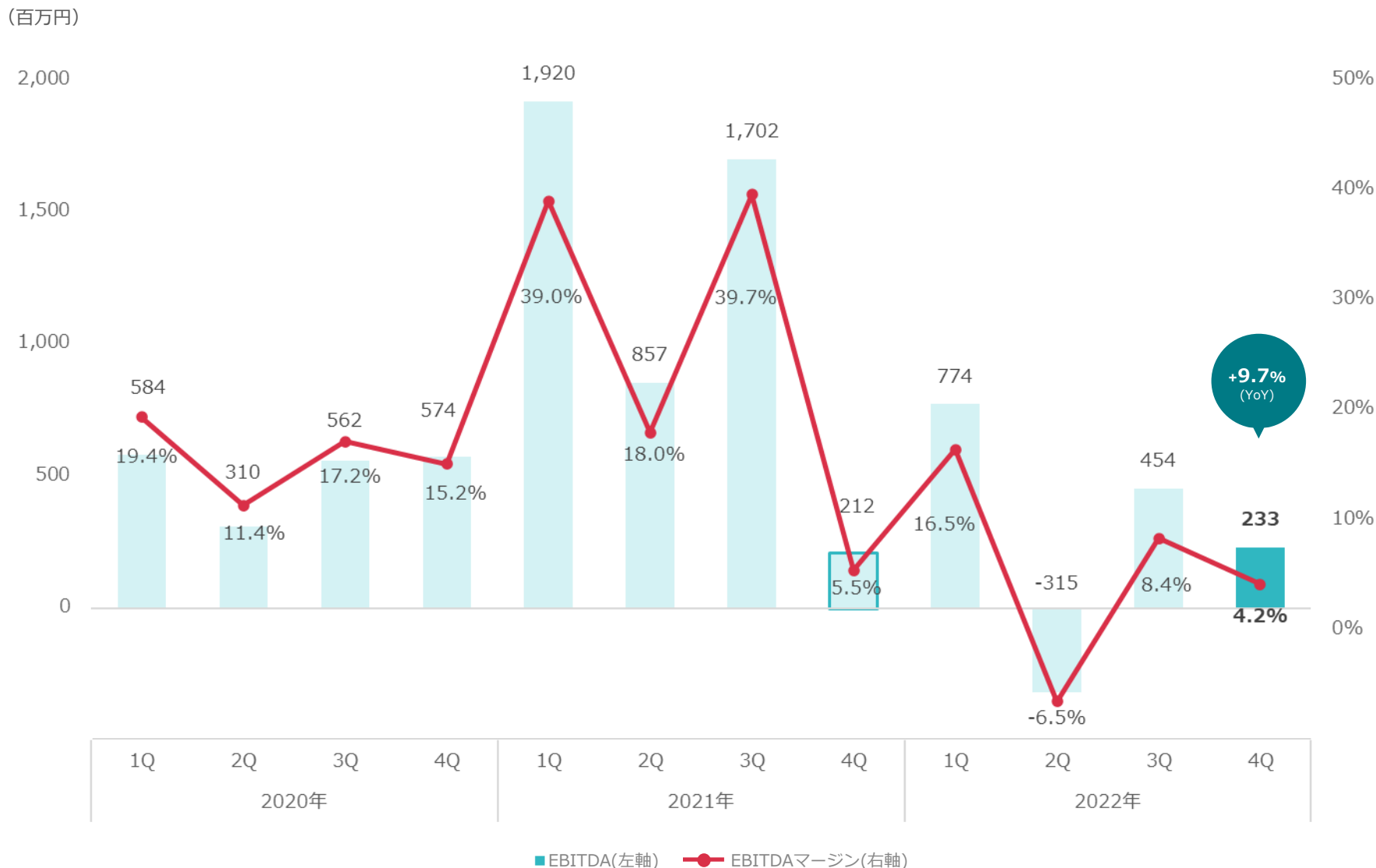
四半期営業利益推移



四半期經常利益推移

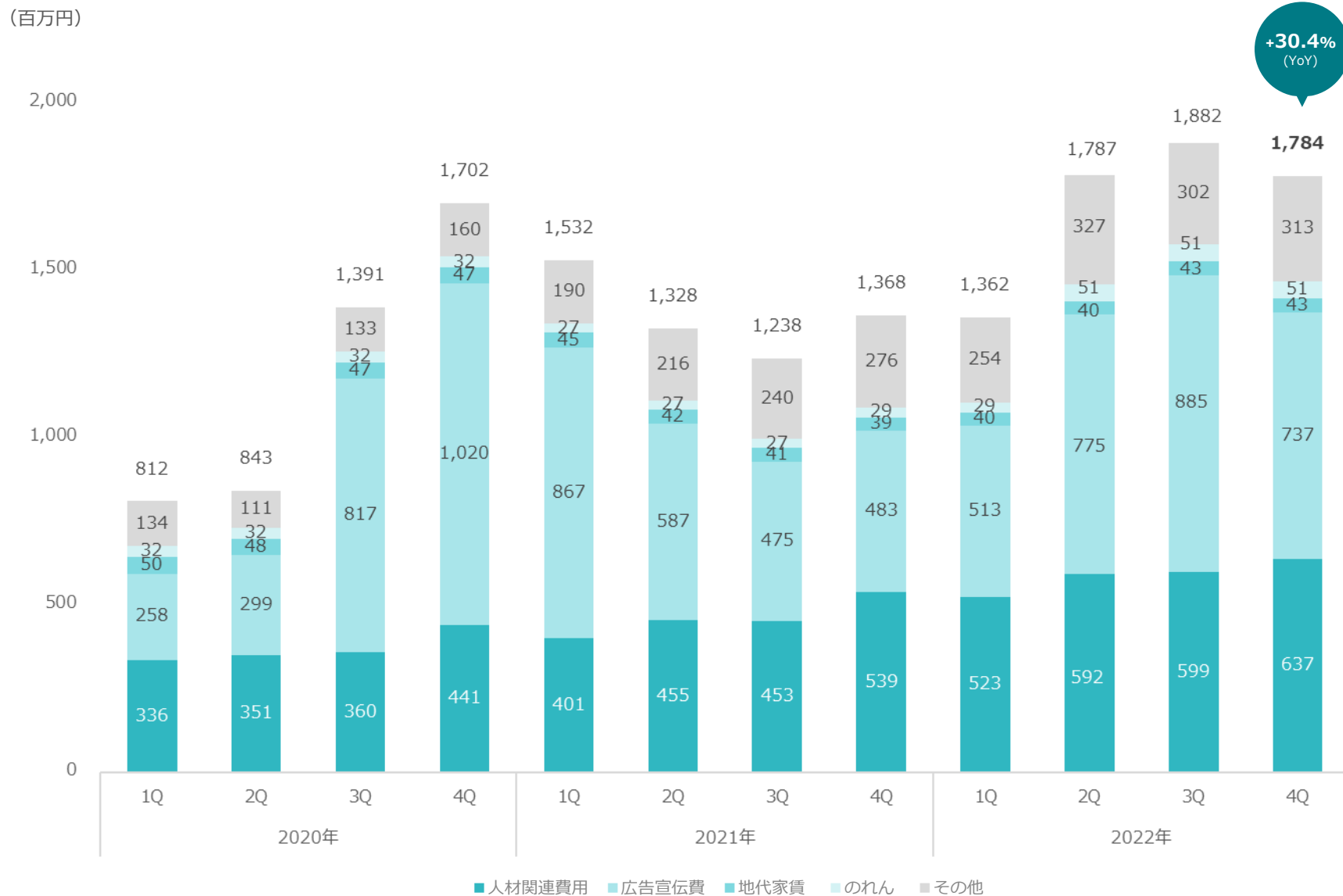


四半期EBITDA推移

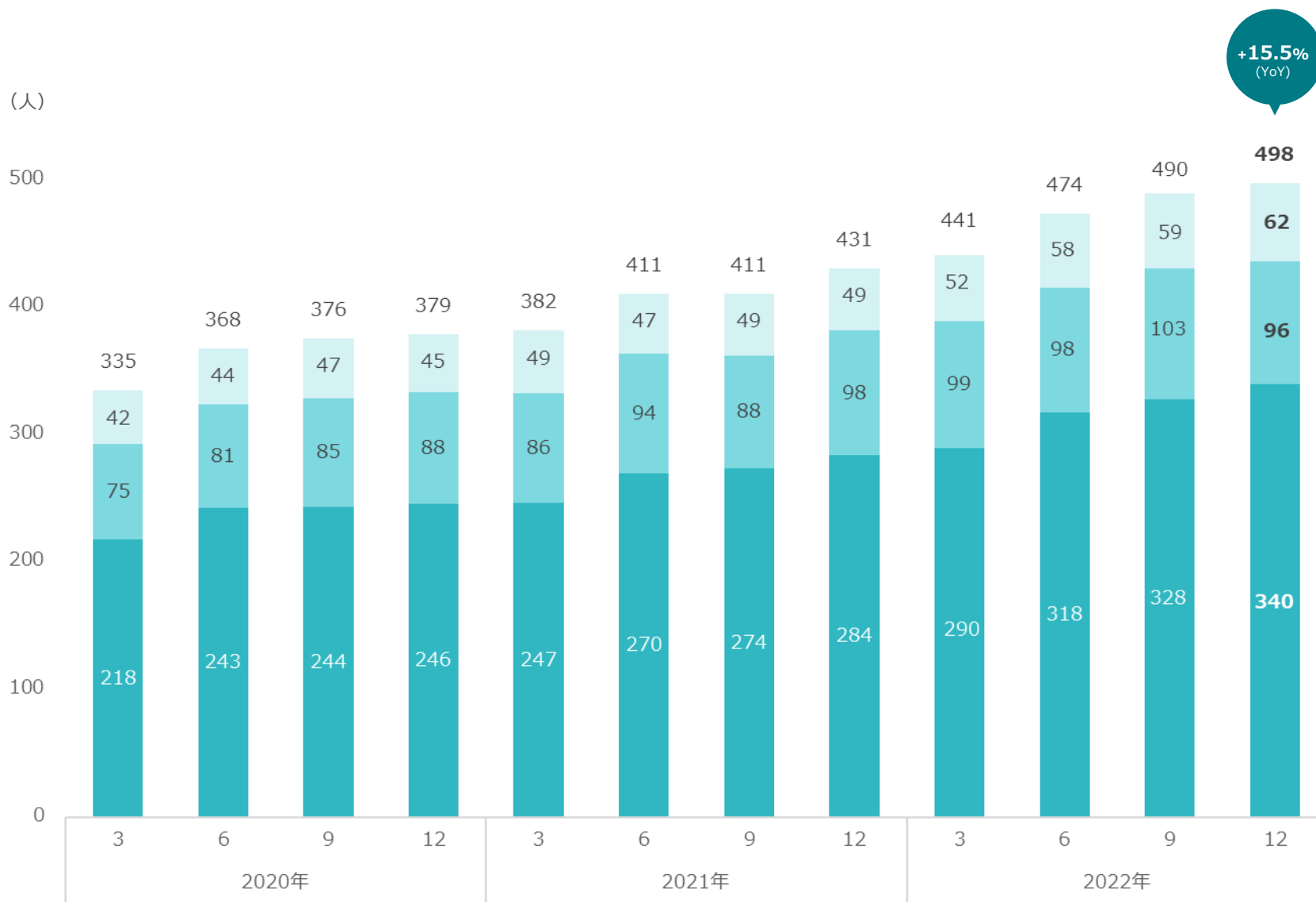


※ EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

四半期販売費及び一般管理費推移



従業員数推移



業績ハイライト1

(単位：百万円)	2018年12月期 (連結)	2019年12月期 (連結)	2020年12月期 (連結)	2021年12月期 (連結)	2022年12月期 (連結)
売上高	8,305	11,852	12,803	17,846	20,536
売上高成長率	72.5%	42.7%	8.0%	39.4%	15.1%
営業利益	1,221	880	1,496	2,305	1,246
売上高営業利益率	14.7%	7.4%	11.7%	12.9%	6.1%
営業利益成長率	26.7%	-27.9%	70.0%	54.0%	-45.9%
経常利益	-2	792	1,816	3,499	679
当期純利益※1	-313	74	744	2,775	46
EBITDA※2	416	1,081	2,032	4,693	1,147

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

業績ハイライト2

	2018年12月期 (連結)	2019年12月期 (連結)	2020年12月期 (連結)	2021年12月期 (連結)	2022年12月期 (連結)
総資産 (百万円)	11,917	12,902	16,227	20,234	22,597
純資産 (百万円)	6,437	6,581	7,091	9,819	9,696
ネットキャッシュ (百万円)	1,319	806	2,154	2,435	590
ROA (総資産経常利益率)	0.0%	6.4%	12.5%	19.2%	3.2%
ROE (自己資本純利益率)	-5.2%	1.2%	11.8%	35.6%	0.5%
自己資本比率	50.4%	47.3%	40.1%	44.8%	39.3%
D/Eレシオ (負債資本倍率)	47.3%	47.6%	55.5%	44.9%	61.4%
一株当たり当期純利益(円)	-28.66	6.78	67.32	251.75	4.12

四半期売上高

(単位：百万円)	2021年				2022年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	4,920	4,761	4,293	3,871	4,709	4,889	5,414	5,523
モバイルサービス事業	4,531	4,426	3,680	3,829	4,674	4,960	5,357	5,454
ポイント	3,604	3,281	2,662	2,815	3,324	3,422	3,575	3,719
D2C	204	215	291	371	429	540	621	654
DX	833	1,035	966	878	960	1,082	1,167	1,149
セグメント内取引高	-111	-106	-240	-236	-39	-84	-7	-68
フィナンシャルサービス事業	416	355	637	74	66	-2	106	116
セグメント間取引高 / 調整額	-27	-20	-23	-32	-32	-68	-49	-47

四半期営業利益

(単位：百万円)	2021年				2022年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
営業利益	1,049	626	567	62	594	3	369	279
モバイルサービス事業	1,231	698	556	533	1,007	588	877	817
フィナンシャルサービス事業	59	140	242	-216	-176	-283	-231	-249
調整額	-242	-213	-231	-254	-236	-301	-277	-288



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。